

研究会報告

第三回チッソ労働運動史研究会記録

日 時 2006年12月15日

場 所 熊本学園大学水俣学現地研究センター（水俣市）

参加者 元チッソ労働者、新日窒労組元組合員

小形喜代太（1928年生まれ、1943年入社）

大戸迫輝夫（1929年生まれ、1946年入社）

松田 哲成（1929年生まれ、1948年入社）

徳永 常喜（1933年生まれ、1948年入社）

山下 善寛（1940年生まれ、1956年入社）

高橋 幸一（1941年生まれ、1957年入社）

山平 勝利（1944年生まれ、新日窒工学校を経て1962年入社）

研究者

花田 昌宣（熊本学園大学水俣学研究センター）

福原 宏幸（大阪市立大学）

磯谷 明德（九州大学）

田尻 雅美（熊本学園大学水俣学研究センター）

記録

大澤 愛子（熊本学園大学水俣学研究センター）

ここに収録するのはチッソ労働運動史研究会の第三回の記録である。この研究会は、新日窒労組をはじめとする新日窒およびチッソにおける労働運動の歴史を記録し、その意味を考えていこうと呼びかけられたもので、退職労働者たちと研究者たちが議論する場として設けられた。経緯と課題に関しては、『水俣学研究』第2号を見られたい。

第三回目は2006年12月15日午後に開催され、二時間余り話を伺うこととなった。話は多岐にわたるが、1953（昭和28）年の身分制撤廃闘争を中心に議論が展開した。このテーマは、昭和20年代半ば頃まで、多くの企業で「工職身分撤廃闘争」として労働争議の課題になっていたものである。新日窒の場合は少し遅い。新日窒労組はこの争議を通して、労使関係のルールを作るとともに組合としての基本を組合員が身につけていった。

この研究会は「フォーカスグループインタビュー」という手法に基づき、同一のテーマで関係者に集まっていただき、自由に語っていただきそれを記録するという形をとっている。こうすることによって、一人一人インタビューしていたのではでてこない記憶が喚起され、当事者にとっても、研究者にとっても新たな発見が得られる。

元組合員たちの発言は、地元の言葉で語られており、可能な限りそのまま収録した。ただ

し、方言が多く残っているが、その場の雰囲気も含めて理解していただくためあえてそのまま記載させていただいた。読みにくさは趣旨ご理解の上ご海容ねがいたい。登場する人名に関しては、正確を期すよう努めたが、字のわからないところはカタカナのままにしておいた。

録音記録のテープ起こし及び原稿の整理は深草雪英（水俣学研究センター）が担当し、花田昌宣が見直した。

なお、この時期の新日窒労組に関しては下記が参考となる。

『さいれん』（新日本窒素労組機関紙）復刻版、第一回配本（1951年2月～1962年7月）、
柏書房、2010年12月

花田昌宣「新日本窒素における労働組合運動の生成と工職身分制撤廃要求」『大原社会問題研究所雑誌』630号、2011年4月

また、会社に関しては下記が参考となる。

矢作正「チッソ史1945-65研究開発」『浦和論叢』24号2000年6月

チッソ株式会社『風雪の百年：チッソ株式会社史』2011年9月

熊本学園大学水俣学現地研究センター（水俣市内）には組合資料が保存整理されて公開されている。水俣学研究センターのWEBページ上に資料目録を公開しており、また当時の写真や動画も掲載しているので参考にされたい。

研究会報告

第三回チッソ労働運動史研究会記録

参加者自己紹介

花田 毎回で申し訳ないんですけど、改めまして自己紹介をして頂きます。よろしくお願いします。

山下 私は山下善寛と申します。昭和15年生まれなんですが、(昭和)31年にチッソに入社しまして、主に技術部関係、分析関係をあれやりましたけれども、争議後、雑作業をやしまして、ほとんどの職場をだいたい回ったんじゃないかな。製造現場を含めてですね。いうふうに思ってます。で、辞めたのは2000年なんですが、その間、執行委員なり執行委員長を12年間やらしてもらって、現在はこの学園大学で資料整理を、組合におるときからあれしてますんで、2年間、資料整理をさしてもらってます、というところです。よろしくお願いします。

磯谷 私はお初にお目にかかります、九州大学の経済学部の磯谷と申します。今日は初めてなものですから、大学のほうの福原さんやら花田さん、それから富田さん、それから酒巻先生かな。全て旧知の人たちでして、花田さんはかなり長い付き合いをずっとしております。で、私はもうこういう作業のほうはからきしの素人でして、ただ、少しばかり労働の話について、あるいは雇用の話について、自分の研究分野にしておりますので、そんなところで関わりが持てればと、最初から少しばかり勉強させてもらいながら、皆さんの話もお聞きしたいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

山平 山平と言います。やっぱりチッソで最後まで残ってちゅうかですね、組合を整理した組で。山下さんと同様2年間ですね、ここ学園大学で、組合の資料を整理ちゅうのをやってるところです。ちょうど私、1962年、昭和37年の安賃闘争ちゅうか、要するにそういう大きいストライキをしたわけですが、そのときに私が入社致しまして。私は山下さんより4つ年下の昭和19年生まれでございます。

高橋 高橋幸一です。(昭和)16年生まれです。チッソに入ったのは(昭和)32年です。仕事は技術部、ストライキ後は現場。現場っちゅてもいろいろ、酢酸を作ったり、ニポリットを作ったり、いろいろしてきました。今は2年間、学園大学、ここの資料センターを手伝っております。

松田 私、松田哲成といいます。みんな、生まれからな。昭和4年生まれです。会社には昭和23年の入社です。今の水俣高校の前が、農工学校って言って実業高校でしたので、その建築科に入って、チッソに入りました。だから会社に入ったときにはチッソの工務の土建課、土建課の建築です。建築の設計に入りました。安賃闘争があって終わった後で、

2年間くらい施設5課という部署におった以外は、定年まで同じく土建課の設計でした。だから我々までが、定年が55歳ですかね。55歳で定年になりました。その後はもう、自分のうちで何もしてないちゅう感じです。何もしてないちゅうのは、一応まあ設計事務所の前が5年から10年くらいしとったということでございます。

花田 土建課ってのは土木建設の土建ですか。

松田 はい、工務部土建課っていつてから、土建課にまた建築と土木とありまして、私は建築の方の、また建築も設計部門と、他にも会社の土建課いうの建築いうのも大工がある、左官ある、レンガがある、みなどの仕事もあったもんですからね。現場と。設計だけは別だったっていうことで。設計は一時は機械設計、土建設計、そういう設計部門はほとんど一緒だったという時代もあったんですが、あとはまた各機械、土建、土木、いや電気ちゅうか、要するに別に、別々にまた設計もあったわけです。

大戸迫 次も、実は私も松田さんと同じ昭和4年生まれでして、私はもう学校なんてあんま。水俣生まれ水俣育ちの大戸迫輝夫と申します。で地図ですね、大戸迫っていうあれがあるんですよ、そこでしょうなあ。古い地図に載っています。親父の出身地でしょうか。で、私はチッソ、まああのころは日窒といっていました、昭和21年の非常に戦後のどさくさのときに御年16歳くらいでしたかなあ、に入社して、それからもう現場をたらい回しって言うかな、チッソという課におったんですよ。今でいう結核の原因の石綿、石綿を丸かぶりしとった現場におったんですよ。昭和30年ですか、ひょんなことから組合、出ちゃって。当時はまだほら、合化労連の太田薫さんが指導しとる頃の、もう完全なる企業内組合のときに組合運動に入って、それからとんとんやるうちに結局、安賃闘争に入っちゃったと。てなことで、まあ言ってみればそのままですよ。で、若い人たちがどんどん出て来だしてから、いわば職場と地域に復帰して。もちろん現場はものすごたらい回しですけど、一応私も55歳の最後の定年で辞めたんですが、どういうわけかまたOBで来てくれっていうもんだからしばらくおって、その間ずっと親交会といえますかね、今ある退職組合員の地区組織の世話係をずっとさしてもらっております。そういうことです。御年77歳。

松田 私もちっと、何か後で話が出るときの繋がりって言うんですかね、形になるかもしれませんが。今、隣の大戸迫君が話をしたように、彼が昭和30年かね、30年に執行部に1年に出まして、その次に私も1年執行部に出たということがあります。昭和31年です。それから、今度はこの大戸迫君たちが安賃闘争のときの執行委員でしたので、この付近がまた辞めるときに、私も岡本さんという人が執行委員長をした、そのときから私もまた8年間一緒に組合で仕事をして、だからそのときには安賃の闘争以後10年間、専従の執行委員でしたので、会社のほうは3分の2しか働いていないというような状態です。

小形 私は小形喜代太と申します。生まれも育ちも水俣です。ほんで、昭和3年の1月2日生まれで、現在78歳です。私が一番ここじゃ若いと思います（笑）。ほいで、工場に入

社したのは（昭和）18年の4月に入社しまして、その時分は非常にこう、鉄砲玉が不足しとったものですから、私もやっぱり一人前にしようかなというふうなところで、どうやらその特攻の要員にはなったんですけど、まあ現在まだ生きていますので。まあそういう時代に入りまして。

それから、だいたい職場としましては工作、工務部工作課。その中に松田さんが土建関係、私が機械関係にいましたので。水俣工場の場合は、非常に付属部門っていうのが非常に幅を利かせた時代が強いわけです。というのはやっぱり職人的な感覚を持っていたもんですからね、非常にプライドを持っていたんですね、妙なところにプライドを持ってる連中が多かったですね。だから昭和13年か14年くらいにもうストライキをやった、部分的にストライキをやっていたときもあるですね。で、仕事の内容的には、結局チッソっちゅうのはよそに、秘密にしてよそに出さないと、機器、機械その他全部タンクでも工務で作って、そして工事をやっていると。まあ簡単なあれを表現しますと、パイプラインの中にバルブを1つかりこむわけです。そのバルブのセンターの位置をわざわざチッソ規格っていうのを作って、よそに持っていても絶対使えんようなやり方をしてるわけです。まあこれが一番分かりやすいと思うんですけど。そういうふうにチッソっていうのは非常に秘密主義なところがあったんですね。で、そこにずっとおりましてですね。

結局、ストライキ以降までも写真的な仕事ばかりずっとやってきましたものですから、それで今回、写真集を出したのは、徳永さんにも手伝ってもらって、山下さんにも手伝ってもらって、現在の約『59年の歩み』っちゅうのを写真集を編集しました。で、だいたい写真から離れた時期っていうのはないんです。ただ私をいじめるつもりでやったっていうのが、まあ千葉のコンビナートに五井工場を作ったんですよ。そのときにもとにかく安賃闘争を抱えて、入ったときにはもう既に向こうに、移転するつもりでチッソがいたんですね。で、工事の段取りをやっていたんですよ。ところがちょっと遅れたものですから、それで石油化学に入るのがチッソは遅れたんですよ。で、そのの機器とかいろいろそういうやつの作業の監督みたいなやつをやらされまして、一生懸命、自分で経験のないやつでも、相当、こいつはいじめたらこっちに来るんじゃないかと、そういうふうな、会社の方は考えて、一生懸命、仕事を余計にやらたんですね。だけどこっちの方としてはいい勉強になったものですから、かえってプラスになったと思うんです。まあ、そういう仕打ちは受けました。それで現在は結局、写真集がとうとう去年、去年じゃなかったですね、今年の3月にやっと出来上がりましたものですから、それで後、先生方の、花田先生に「これでは説明が足らん」と言われまして、先生の暇のあるときに、写真についての説明をしていくということをやりました。今ちょっと中断してますけど、そういう状態なんです。以上でございます。

福原 2ヶ月ぶりです。ちょっと遠方なんで、別の調査も抱えてですね、毎月っていうのはちょっと難しいので、2ヶ月に1回ぐらいのペースでこの間、来させていただくという

ことです。大阪市大の福原です。一応労働問題が専門にしています。またよろしく願います。

身分制撤廃闘争と虚脱感

山平 よかですか。いや、そいじゃ、先輩たちがちょうどおらすもんじゃって、聞かんばっと思うたっがですね、私らが、ほんなこて写真集に載せっとはですね、(昭和)28年、まあ11月14日に代議員会が51回でしょ。ストライキとかのですね。

花田 何年のですか。

山平 (昭和)28年、28年。

山下 身分制、身分制。

山平 身分制、(昭和)28年の10月の、何かそんな、感じが違うったなあ、感じが。一応あつとは、身分制もあつて、そつとな、退職金。退職金違いと、定年延長、そすと名称、呼称の、こん、こん3つですね。そしてそん、総称して身分制ちゅうたかもしらんばつてんが、だいたいその3つですね、だいたい。闘いっちゅうか、要求ちゅうかがですね。でそげんやってですね、あれを見て、まあ、結論から言わせば、その終わった後1ヶ月、執行部が決まらんとですよ。要するに職場から推薦が上がってきとらんわけですよ。代議員会議事録見てみれば。最初は会社だったですよ、組合長執行委員候補ちゅうとが。ずっと見てみればですね、職場から必ず一人ちゅうとが方針やったんですよ、ずっとですね。だいたい、職場単位がどしこあるか知らんばつてんな。なんさま1人はくれるとずっと言うてきとるとですよ。だいたい、代議員が60何人ぐらいがおるごた、あれですね。そげんなつとつとですよ。で、だいたい20~30人が上がつとですよ、で、それは絞って、だいたい25人ぐらいですつとやっていってくれたんですよ、選挙ばですたい。ただ、その年は鬼塚義貞が組合長、そしてあとは、誰だったっけな。戸次さんか、あの人が書記長かなんかですね。

大戸迫 ああ、そうそうそうそう。

山平 で、書記長時代ですたい。でそんな時のごて、ほんなこて3月いっぱいですよ、だいたい、任期がですね。で、4月から新しく替わって3月ですね、3月の後半にですね、代議員会ば何回かしてしょうなかあて、職場から。ちゅうことは、私はたぶん敗北感からじゃろうて思つたんかな。こん、ストライキに対してですたい、収むつとに対してですたい。要するにこれが、これ書いとつて、名称を廃止すつとかですね。で、月給制に移行すつとか、定年延長は5年後にすつとか何とかしてあつたでしょ。書いとつたですばつてんが、見てみれば定年延長はですね、5年後にして、その間は10万円ぐらいで何か解決しとるとですね、その間に辞むる人に対しては。そげん書いてあるとですよ。そいでそこをだいたいまだ取りたかつたけど取れんかつた、と、収め、こいで我慢して、堪忍してしてくれて収むつとですばつてんが、そこは。ばつてんその、どうも、名称呼

称とですね、月給制についてですね、どうも、なかですよ、議事録に、取ったちゅうごた感じは。そっで、さっき言ったように、役員選挙のときに職場から推薦が上がってこんちゅうことは、そしてその、昔は推薦が上がってこんとは、ほとんど延長線のうちでだいたい何ヶ月か延長しとったじゃなかですか。だいたい。代議員会で決めとるとですよ、ね、延長して、制度ちゅうとば決めて。

大戸迫 執行委員が。

山平 執行委員ですわ。そのときは延長ちゅう言葉が出たばってんです、結局、延長しとらんとですよ。決まるまでは1ヶ月ぐらいいはあったけん、1ヶ月ぐらいいは休ましたかもしれんですけども、その後、緒方さんとかがしとるでしよ、執行委員とか組合長ばです。だけん、そこんとかがどうも引っかかるもんだけん、おっどんがどぎゃんか、おっどん理解しとっとと違うごた気のすつとですばい。組合が勝ち取ったあれは。で、組合についてはさっき言ったようにかなり敗北感のあったんじゃないかと、ほんでもう組合は信用でけん、ちゅうのがあったんじゃないかと思うたもんだけん、聞こうごたったちゅうのがそこです。

それと、そんな頃、書記が使い込みばしたつがあったでしよ。それめかなりやっぱ揉めとつですもんね、書記長も警察問題になって、要するにそんな時の鬼塚、さっきも話があったばってん、戸次さんか。戸次さんの組合長と書記長は町とか何とかて裁いて、一応、代議員会の探しとって何とか何とかて言われとるもんだけん、何回か、そげんとば代議員会の議事録に書いてあるとですよ。ほんでどうもそのへんがと思うたもんだけん、今日は聞こうごたんなあと思つてですたい。ちょっと違うごた気のすんねえって思つて書いたですたい。どげんかなと思つてです、そのへんが。なんでそんな、代議員会も。

山下 先生たちもいきなり議論は始めたもんだいけん、代議員会のことが。今ん、そんな、身分制のことについては山平くんが言うように、私たちは（昭和）31年、32年に入つとるんです、それ（身分制争議）以降入つとるでしよ。だけん身分制の話を聞いてたり、もので見たりしとるばってんが、あんまり知らんわけですよ。だけん、そのへんで調べるうちにいろいろと問題点出てきたけん、実情どうだったかとですかと。そういうことだと思つとですよ。

小形 身分制については（昭和）33年に改定した形に。形としてはですよ。

山平 あん、要するに定年延長。

大戸迫 5年後だったもんなあ。

山平 5年後は延長やるでしよ。そんなころなつと、身分制も一緒につちゅうごたつ形だったでしよ。

小形 そうです。それで、そんな時はいろんな風評があったんですよ。ちゅうのは、出てない奴が、私はちょうど内容（発電所）の工事に入って、あそこ、五木におつたんですけど、そしたら大阪のなんとかいう人が、何か、大阪組合の、あれが。

福原 大阪の組合ですか。

小形 はい。

山下 チッソ大阪組合ですね。

福原 ああ。

小形 連合を組んでたもんですからね。名前は定かじゃないんですけど、確か。「水俣ではあんな嘘を言わんと組合員が納得せんとですか」と、それだけは私ははっきりと覚えておるわけです。何でそういうこと言ったのかなと思って。それでやっぱり、連合体の中でその付近の足並みと、足並みといいますか、そういうところにやっぱりちょっと、山平さんが言うのを考えてみるとそういうところはあったかもしれないです。それと、鬼塚がもらったんじゃないかとかいうところと。

山平 やっぱそぎゃん言うて、そげんとの出たわけですから。そんとき出たわけですから、だいたい。鬼塚んそん、重箱のどうろこうろちゅっとった。知らんばってんですたい。

小形 ちょうどおれ、五家荘のところで会うたもんだけん、その定かじゃなかったたいね。

山平 で、さっき言ったように1ヶ月遅れとるでしよ、役員改正がですね。5月になってから、緒方執行部が出来とつとですもんね。で、その時初めて徳田さんとか江口正春さんとかが執行委員になつとるとですよ、言ってみれば。で、さっき言ったように、そんときは、それまでは組合員にやっぱたいがい対立候補が出よつたもんですもんね。そういうときは緒方さんな信任投票だったつとですよ、緒方さんな。そしてですね、もう信任投票のあつて、今日もやっぱ山下さんとちょっと言うたばってん、執行委員と一緒にしますと。ほんで組合長は信任投票、で、執行委員は14名で出とるもんだけん、だいたい9名やったもんですから、執行委員はですね。そつて1番から9番まで番号の付く普通の選挙と。で、もし組合長が不信任にあえば、執行委員選挙は無効と。書いてあつたつとですよ。それを書記長はちゃんと討議したかですね、書いてあつたですけども、それもちょっと私も疑問に思つたですばってんが、そげんした格好で。やつと緒方さんが執行委員になって、なつたごつしてですね、なし、そん1ヶ月遅れたつかと。さっきん話じゃなかばってん、鬼塚義貞氏がそんとき途中やったで、せろちゅうても代議員会の意見じゃ少数意見ちゅうあつたんですよ。そのままやるべきやつたと、やっぱ、まだ解決しとらんじゃないかというごた意見があつたですね。あつたばってんが、強う言う人はなくて、結局は誰もせんやつたらつていう雰囲気だつたんですよ。代議員会の議事録なんかば見た限りでは。そういつたもんだけん、疑問に思つたもんだけん聞いたわけすたい。こらもう絶対聞いとけばいかなと思つたもんだけんですな。小形さんにはもう、頭にひっきりじゃすまんもんだけん。

大戸迫 あの、いいでしょうか。あの、ちょうど私はですね、その頃は今、思い出したが、単なる一青年部員ですよ。それで、とにかく訳分からんとですたい。しょっちゅうそのデモ、デモ、デモ。しょっちゅう、青年部集まれ、ストヤストやで。結局、終わつてみたら何やったろうか、何も取れとらんわけたい。だからその虚脱感、無力感、こらも

う徹底的。

山平 そんなのは当たり前ですばい。たぶんおら、そげんじゃろうと思うた。そっで今ほ、組合がさっき言ったように組合不信任で、推薦もせんやったと。上がってこんかったっじゃなかったかと思ったわけですよ、調べよってですたい。そんならちっと分かっですたい。

福原 虚脱感って、(昭和) 28年のことですよ。

大戸迫 はい、はい。(昭和) 28年じゃった。だからもう、単なる一青年部員ですよ。もう、何も訳立たんし、そして今度は職場はどぎゃん変ったかと言えばですね、とにかく職制の力を徹底的に踏みつけてしまったんですよ。その後ですね、なんと言いますか、職制に力を与えてですね、会社の方針がたい。ほんでますますそこが暗くなって、ほんで青行隊だったりというのが、定時制が全部、逃げてしまったたい。で、定時制行ったもんはもう治外法権だ、そこは。そこでも生徒会ちゅう形でたいな。もう組合に、職場で出来んことをしてしまったわけ。もう何だかんだというわけ。そしたらその勢いで、私が生徒会長しとったもんだけん、お前ら組合だろうってわけで、定時制の生徒会から押されて、上がっちゃったつうな。

福原 何から押されたんですか。ちょっと良く聞き取れなかったんですけど。

大戸迫 ああ、チッソの、その頃ですね、そのストライキの2年前に定時制、通信制、ほら高校制度が変わって。で、チッソの若い連中もぼちぼち、ほら勉強したいちゅうわけで、登用試験、採用試験ば受けようかとしね。

福原 新制に行ってる人たち。

大戸迫 今の定時制の走りですよ。(昭和) 26年に出来たから。ほんでその。

花田 水俣高校の。

大戸迫 水俣高校に定時制が出来たんですよ。だからチッソの青年部員、まあ戸籍は青年部員ですわね、若い連中がどんと入ったんですよ。ほんで(昭和) 28年の争議のと、職場の虚脱感があって、もう職場じゃ物言えんわけです、若い連中はもう押さえられて。ところがその定時制の場で生徒会の出来たところは、もう言いたい放題やりたい放題で、もうあそこにばーっとチッソの若い連中は水俣高校の定時制課程っていう場ですよ、花開いたっちゃおかしいけど、思ったことをその、自由にやれたわけですよ。で、私は3期生だけど、哲ちゃん(松田哲成)な、1期生だったか。

松田 うん。

大戸迫 うん。だから昭和26年に、私は(昭和) 28年、ちょうどストライキのときに入学したもんですから、3期生として。そんなときはもう24歳ですので、もう担任の教師よりも年は多かちゅうな感じで。だからもうチッソ班が8割おったんですよ。その定時制です。ですから、若い連中が寄ると、やっぱりいろんな活動する場ができたんですよ。会社の手が届かんから。それで、どういうわけか私がトップで組合にいったところが、後から次から次にもう、定時制出身者が執行委員になって委員長になったりちゅう方向に

行ったことがあったですよ。ですから山平さんの疑問は、物凄い職場では虚脱感、結局は負けた、負けたっていうのが特に印象あったんですよ。

山平 そんなのは、ちと分からんこっじゃなかですねえ。

組合不信と組織改編

大戸迫 それであの、組合のあったっちゃ、なかったっちゃ同じこったいて。だからそのお、鬼塚じゃなんじゃて聞ききよったんですよ。まあ組合のほら、職場のリーダーたちがしっちゃかめっちゃか、鬼塚をけなすわけだな。我々はまあそこまで知らんけども、要するに組合じゃ、なんじゃろかという疑問を持った時期があったんですよ。で、とりあえずちょっと一歩進めますとですね、緒方登さんがやった、あの人も、人も良かったんだけど、結局、緒方さんは、まあ何ち言いますか、結局、求心力はないもんだから、結局不信任食らったわけですよ。

山平 それで今、大戸迫さんがそげん言うたでしょ、不信任。で、まだそこまでいっとらんかもかもしれんばってん出らんとですよ。1回不信任はですね、出っとですよ。出っちゅうかな。

大戸迫 辞職したわけたい。

山平 知らんというか、何やったかな。要するに不信任決議は掛けんばいかんかち、代議員会に提案しとるわけですよ。その、執行部が。しかしそれはもう不信任を問う必要はなかと決まったんですよ、代議員会では。やっぱそら反対意見が多くてですたい。それは出てきたとですよ。ただ、ここ、大戸迫さんの不信任決議案にまともっとかなあ。

大戸迫 結局、不信任。あの、本当はですね、3月にせんばんとば11月になったでしょ。前んときは。

山下 その可能性はあるよな。

山平 (昭和)29年に緒方さんの執行部が出来っとですよ。1期目は、5月に。そしてその前の年から1年になったでしょ、その前はまではずっと半年だったですよ、執行委員は、確か。それでその前の(昭和)28年のときから1年になっとですよ。ほいでさっき言ったように、執行委員のなり手が少なかっですよ、1年間だから。そげんした書き方がしてあっとですよ。そいで1年ではやっぱほとんど辞退するわけですね。

大戸迫 その、なり手のおらん。

山平 なり手がおらんと。そいでこれ1年だっちゅうあれはあったですけど。で(昭和)29年の、さっき言うごて、3月で鬼塚内閣ていわれたなほんなこて、もう辞めて、次4月から、次の新しか執行委員ならなんばんとに、1ヶ月遅れて5月に緒方登さんが執行委員組合長になっとつとですよ。で、組合長と執行委員だったけん、組合長が全部、組合長と書記長ば指名しよったですたいね、確か。まだ三役候補がどうのこうのじゃなくて、そげんしか書いてなかと。そして、28年のとき今、大戸迫さんが言う青年婦人部

ちゅうとが出来たわけでしょ、(昭和) 28年に。で、そのときに組織ちゅうか闘争組織の中に青年行動隊っていうのが出来たわけですね、だいたい。んでそのときは川上敏晴やもんな、青年婦人部長はな。組織部長兼。

大戸迫 ああ、そうそう。青年部長。

山平 組織部長。青年部長兼執委員でな、敏晴が。

大戸迫 組織改革したたい。しかしもう、その後はもう完全に何つうか、虚脱感つうかな。それで緒方さんはですね、不信任取ったと思ったら辞めたんですよ。総辞職したたい。

山平 (昭和) 30年にですか。あっぱ2期したっですか、2期目に辞められたんですか。

大戸迫 言うてみればですね、結局あのときですね、河島内閣になったときにですね。

山平 そのあと河島さんがならした。

大戸迫 そうたい。だから、もうそのこれじゃいかんちゅうのが、学卒の連中の感覚、いわばその労働者的と言うのかは分からんけども。

山平 やっぱりそん、課長とかなんとかはほとんどやっぱり来とるですもん。代議員会の議長になったりとか。全部そげんじゃもん。

大戸迫 ですから、やっぱ組合がしっかりせんば会社もダメになるみたいな理論を振り回して。河島とか大木とかって学卒の連中がですね。それで、とにかく組合をまともにしようということで出たような感じがするんですよ。

山平 これできよっとかな、大戸迫さん。

大戸迫 はい。

山平 (昭和) 29年の5月、さっき言ったごて、大戸迫さんが言うごつ、緒方さんが組合長だったがな。その年は明るる年の1月まででなとる。で、1月から河島さんになとるです。

山下 だけん、1年しとらんがな。

山平 そって1年もしとらんとたい、ほって。

大戸迫 そうたい。

山平 ほんなこて。ほって大戸迫さんたちは違うて言わしたもん。1年はなかって言わしたけん。

大戸迫 ええと、確かないね。年末に選挙があったんじゃなかつかな、執行委員選挙は。

山平 (昭和) 30年の11月まで河島さんがしたやろが。で、11月から今度は村上さんがしたごうなととと。

大戸迫 ああそうか、そうそう、そうそうそう。河島さん引いたたい。(昭和) 29年の暮れに選挙やって(昭和) 30年の1月から実行したようなごたつ気のすんな、一番最初は。とにかく、定期まで緒方さんがしとらんで、総辞職したもんわけ、まともらんもんだから。

山平 してなかですね。ほんなこて1月からになとるけん、んなごた3月までですね。

大戸迫 そうそうそう、はいはいはい。それで、組織をまとめようと言った頃がちょうどですね、太田薫さんあたりが河島が組合をまとめよったから、合化労連、合成化学の組合連合会を作った時期に言ってきたんですよ、そのときには。それからはずっとチッソも、いやそころは日窒、日窒の組合も合化労連の一員として。

山平 いや、もうそんな時は新日窒ですばい。

大戸迫 「新」になっとるけ。

山平 はい。新日窒ですよ、そんな時は。

大戸迫 ああ、新になる、新になる。まだチッソになる前たいな。

山平 はい、もちろんチッソになる前で新日窒ですよ。新日窒も結構早かったっじゃなかですか、新日窒素は。

大戸迫 新日窒は終戦は。

福原 会社の名前は何回か変わってるんですか。

山平 社名は25年に変わっとるけん、新日本窒素っちゅうのが。

小形 はい、25年。

山平 25年に変わっとるけん、新日窒は結構早かったですね。

福原 今はただのチッソですね。

小形 社名変更は新日窒。

山平 はい、社名変更して。昔は日窒だったですけん、終戦から終戦後はですね。25年に新しい「新日窒」っていう株式会社になって、その後チッソです。チッソはですね、かなりもう遅いですから。チッソって知らんでしょ、歴史が。まだ浅いですから、チッソ自身は。

大戸迫 ですから、そうですね。で、最初そういった企業内組合としてかたちをつくった頃の、私は組合に入ったんですよ。そんでもう完全なる太田主導ですたい。何かあれば太田来いちゅうて、太田さんの積極的に、積極的ちゅうか。

山平 それで、これでいけば大戸迫さんが河島のときに執行委員になったわけですね。その後、松田さんが、やっぱそんな今ごて、こんだ村上さんときに執行委員したわけですね。こうこう、書いてあるもん。

身分制争議の痛み分け

花田 いくつか気になることがあって、昭和28年ですね、1953年ですね、朝鮮動乱の後かな。最中かな。だから、その辺と争議の関係みたいなのもちょっと気になるんですけど、(昭和)28年の身分制争議というのがどういう経過で何を掲げてみたいな、大卒のところをちょっと説明してもらえないですかね。

福原 (昭和)26年にもストやってるね。

花田 (昭和)26年にもストやってる。

山平 いやそれは賃上げですよ。

福原 これ、ただの賃上げですか。

山平 それが初めてち思います、組合でストライキしたつが。あの、組合が出来てからは。初めてち思います。

山下 大戸迫さんか松田さんから、そんな身分制はどういうやつで、どれで、今、だいたい。

福原 争議やって虚脱感、感じたっていう話が、(昭和)26年と28年と両方とも虚脱感、感じたっていう話だったんですか。

山下 (昭和)28年、28年。55日間。

山平 (昭和)28年のは、57日しととですよ、長期ストは。28年のときは。

松田 はい、身分制はですね。

山平 身分制は。こらほ、11月に収めたごつ書いてあっでしょ。(昭和)28年の11月にですね。

収めたごつ書いて、50何回しととですよ。そうもんだけんですね、そういう指令を与えているところが、まだどっかにあったのかはわからんとですよ。んで、議事録載って、今日はストライキ何日目やっで、あー、何日ストライキ入ったばいねち、分かったわけですたい。全然わからなかったですたい、見てで。

山下 それで、だいたい、身分制ちゅうたどげんだったか、山平君ちょっとまとめちゃううたばってんか、だいたいにどういうことばして、どげんだったか、ちょっと概略ば。

花田 概略、外側の歴史。

大戸迫 私よりも哲ちゃん(松田哲成)がよかる。

松田 いや、あの、私もさっき言ったように、ここ同じだし、年齢的にも同じだし、まあ、小形さん私よりかは先輩ですけど。会社も、私が一番3人の中で遅く入って(昭和)23年入社ですけど、その身分制撤廃の時には、当然、私たちも参加しとったし。磯谷先生ですかね、なんかに、チッソの問題云々は水俣病も含めてですけど、やっぱこう、差別ちゅうものがですね、やっぱしもう、本当に一番癌になってるちゅうんですか、そこになっているような気がするわけです。だからもう、チッソは戦前からもう非常に身分制ちゅうのが強かった会社でですね、それをずっと戦争が終わってもそのまま引きずとったちゅうか、あるいは今日まで引きずとちゅうのはまだあるわけですけども。

私が一番、会社に入って、失望したちゅうのか、それはやっぱしまだ素直だったから、レッドパージのときに結局、第二組合が出来たと。これがものすごくやっぱし純真だったから、結局すぐ会社の係長、課長っていうんですかね、そういう連中を中心にして新組合が出来たわけですよ。一夜にしてちゅうか1日くらいしかもうもたんぐらいにですね。もうそういう係長、主任を中心にした組合が出来たと。だからそれに、みな雪崩を打ってそれに行ってしまったと。だから若い青年婦人部の連中が、なんちゅうこっやという形でですね、非常に失望をしたちゅうんですかね、組合にちゅうか、あるいは戦制にちゅうたらいいですか。

だから、新しい、そういう前の組合がそこに工場外の橋の所に来てですね、外から我々の今ある組合、執行部ちゅうのが演説をする、話をする。我々は工場の中からそこまで来てからですね、組合大会みたいなのを開いてですね、やったと。その時に非常に失望感ちゅうか虚脱感ちゅうかのを覚えたちゅうのを。おら、まだ脱退はせんちゅう格好で、脱退届を出さずにおって、若い人間で中にはあったし、女の組合員の中には泣いて、やっぱり組合の運命ちゅうか、そういう状況だったんですよ。しかしまあ、いずれにしても総流れちゅうか全部だったから、結局は自分たちも何日かしたうちに、やっぱり新しい組合に行くと。そのときに、組合ちゅうことについて少し失望で言うんですかね、まあ何かしらけたようなものの感じがあったのはありますね。

その次に、山平さんが、みなが組合員に、何て言ったらいいですかね、不安や不信ていうですか、っていうのは、やっぱり組合はそれまでに、賃上げだとかいろんなボーナスだとかいう要求のときにほとんど、結局スト権を取って団体交渉に臨んどったんですよ。ところがなかなか最初のスト権ちゅうのは抜けんとかですね、結局、今まで団体交渉の中で会社が回答してきた中に、結局はちょっと色をついて、結局ストは打たずに終わってしまうと。そういうのが、もう結局、去年の賃上げも今年の賃上げも、あるいは今年の結局その、要するに闘争のちゅう格好で、スト権は取るけれども打たないちゅう形でですね、執行部が連中がそげんやるならいいやと、こういうちょっと不信ちゅうですか、かたががあって、さっきから出てるように、ある組合長はあやつは重箱を貰ったちゅうたかな、何ちゅうたかな、とにかくその重箱にいっぱいお金を貰ったと、そういう不信っていうんですか、風評っていうんですか、それがもうやっぱり、溜まってきとったちゅう感じがありますね。

そういうかたちの中で、今度は身分制闘争っていうんですか、結局あの頃は身分制をなくせっていうのと、労働協約で組合員の権利っていうんですか、契約をきちんとやったり、そういうのは労働協約とやっぱり身分制っていうのが切っても切れんていうんですかね、形ちゅうのがあったような感じがします。だから労働協約ちゅうのは、その頃の組合の執行部の一番大きな団体交渉だったと思いますね。

山平 そうですね、そうですね。団体交渉権、かなり力入れとるですもんね。

松田 はい、それはもう。結局1ヶ月とかそれくらいかかって東京に行ってですね、団体交渉しとったと、こういう状態と思っております。そこが私のきちんと、いつ、何月から何日までっていうの、よく覚えていないので。だからそういう、結局、身分制の問題が、チッソのいうならば、凶になって私言いましたように、磯谷先生にも、結局チッソは社員工員というのも歴然として身分制があって、それはやっぱり職場の中にあって、やっぱり何かもややしとったわけですよ。だからそれを何とかしたいという形で、組合は結局（昭和）27年に取り組みなはったんかな。で、（昭和）28年に結局そういう長期ストライキをかけて、社員工を全部社員にしろと、定年を全部55歳に社員並みにしろと、月給制にしろと、こういう形で要求を掲げてストライキをやったんですが、

私は今、山平さんがおっしゃったような形ですね、不満もあったかもしれんけどですね、その時には、まあまあ結局は実は取れたんじゃないかなろうかと。

というのは、結局、現実には定年の問題を5年間かけて延ばしてはあったけれども、結局5年間かけてでも、結局は勝ち取ったってわけですかね。だからもう、そういう月給制の問題、それから身分制の、社員は社員、みんな社員になった、定年も同じ。だから結局、社工員が一緒になるということは、結局それからの賃上げであれボーナスであれ、だいたいその中にくわけですから、やはり実質的には取れたんじゃないかと私は思うわけですよ。だから、しかし長期ストを闘うとなると、今まで経験してなかった、例えば製造部についてはこういう機械を何ヶ月も、結局無期限に止めたんじゃない、会社は硫酸の炉が壊れるとか何とか言われると、経験がないもんだから止めた。やっぱそれは結局、動かさなきゃしょうがないかと。そういうにやっぱし、それで出た利益は、結局社宅を作れとかですね、そういう要求をしてですね、結局会社のアパートなんかっていうのも、それで（炉を）止めないで出た利益については、そういう福祉施設のですね、社宅を作れと。で、そういう社宅については、誰でも一般で入居できるようにせよとか。というのは、会社の社宅っていうのはですね、やっぱ会社の給料の高い連中、身分が高い連中から入居が、優先権があるわけですよ。しかし、このアパートについてはそういうことは一切なしと。結局一般の組合員から入居希望者の中から抽選で入れるとかですね。そういうことをして、硫酸の炉なんかでいうのを結局は、最後には運転さしとったと。しかしそれについてはそういう組合との取引をしたうえで運転はしたと。そういうことはあったわけですよ。

しかし、長いスト、長くなってきたもんだから、結局、今までの社員の連中ちゅうのは、その身分制撤廃においては、言うならば、何も、ストライキはして賃金は引かれるけれども、何も実益ちゅうのはないわけですよ、社員の連中は。もともとそういう自分たちの身分、月給制だし定年は55歳になっというわけですので。だから、工員の人たちはそういうふうちゃんと定年が延びるし、月給制になるし、給料の支払いも社員は24日、工員は28日ちゅうのが、こういうのがみんななくなるわけですので、工員ちゅうか圧倒的には本当に良かったんだけど、社員にすれば1ヶ月も、1ヶ月半もストライキして結局、賃金ば引かれたばかりじゃがね、ということがあって、やはり長期化するにつれて、何かその、ぎくしゃくしてきたと、組合の中ですね。そういうのがあって、結局は取めるときにみんなが、みんながちゅうか、まあ工員の人たちちゅうかですね、そういう人たちには、非常にこう不満が残る形になったと。結局5年先に定年が取れるっていうのはおかしいんじゃないかというような感じとかですね。

しかし、社員という一方の方にとすると、内容を、おっどんな利益がなかったちゅうような形があるもんだから、それでいうならば不満がちょっと残ったと。しかしいずれにしても、そういう組合の内部の問題を抱えながらだったから、まあ痛み分けちゅうんじゃないけど、どちらにも不満を残しながら、最終的には闘争が終結されたんじゃない

ないかと思うわけですね。しかし、一応そういう約束事はだいたい、まあ5年延びたちゅうのはあるけれども、そこまでは出来たもんだから、終わったと。だからそのことが後の執行を選ぶときにもですね、やっぱしぐじぐじして。

山平 じゃなかったらち思うわけですか。議事録を見た感じ、そげんじゃなからうかつちゅう感じはしたもんだけん、聞いてみたっですよ。

松田 はい、争議を収めるときに、もう結局は、あわや第二組合が出来そうちゅうところまで行ったわけですよ。それを、この大戸迫君が言った、河島さんという代議員会議長が、そういう変な動きはするなと、というのは、組合を割るちゅうようなことはけしからんと、いうようなですね、いわば人が出てきて、結局は組合も分裂しなかったし、一応収まったと。そしてまたそういった人が結局は次の執行部の役員っていうんですか、委員長になったと。こういうような状態だと私は見ておるんです。

山平 そうでしょうね。それははい、議事録じゃあ分かりますけど、代議員会の（昭和）28年は河島さんが代議員会の議長やったな。それは確かそう。

松田 はい。だから、私も初めて身分制撤廃闘争のときに職場の代議員に選ばれておったもんだから、スト中は裏山の硫酸の、みんなずっとストライキ中、昼も夜もちゅうんですか、ピケでだいたいマークしたですよ。だから、だいたい状態は分かっとるけど、まあ日時を含めてですね、小さいところなんかは見ないと分かりませんが、まあそういう状態だったんですね。

社工員の定年と賃金、退職金差別

磯谷 あの、定年は工員の場合には何歳だったんですか。

山平 50歳。

磯谷 50歳、そうですか。

山平 はい、それで（昭和）33年から55歳になったわけですね。

松田 1年ずつ、闘争が終わったぐらいから1年ずつ。

大戸迫 最初の人51歳、次の人は52歳というわけです。

松田 5年、5年。

磯谷 なぜ5年間のそういう間ていうふうな形になったんですか。

山平 身分制を会社はいくらか保持したかったわけでしょうけどね。

山下 それは後の60歳もそうですよ。いっぺんになったんじゃなくて1年ずつ延期して5年延期して。

磯谷 ははあ。

山平 そうです、さっき言ったように大戸迫さんたちが一番最後、55歳のその次の人は56歳になっとつとですね。

徳永 スカッとしたことはやらないんですな。だらだら、だらだらこう。

山下 なるべく引き延ばすと。

山平 そっで今、松田さんが言わしたごて、保安要員が出て、要するに硫酸ば出荷するために硫酸ば動かすわけでしょ。そんな時に1,180万売り上げがあったらしいんですよ、そのときが。で、そんな時に第三アパートば作っとっですもんね。そっだけで足らんけん、ちょっと足してもろて、作れと組合が言って作ってもろて。それで今、松田さんが言うごて、出来ればそんなほんのこて、身分の低いちゅうか、普通の工員でも入らるごつせよちゅうこって、それはなかなか、会社しとらんごたんなあ。あるば、議事録ば見た限りでは。ちょっとは落ちたばってんが。

福原 定年の問題とね、退職金の問題、退職金はどういふうに当時なってたんですか。それは全然関係ないんですか。

山平 退職金もな、これも毎年な。

山下 賃金体系が変わってくるから変わってくるんです。

山平 退職金ちゅうとも。退職金もどうもこうも（昭和）28年に一回しとっでしょ。

山下 そうそうそうそう。

山平 あんときな、一括して90日か、90日、25年か35年以上ちゅうかなんかでな。ほっでな、聞いてみればですたい、今ほ、定年延長は5年でしょ。で5年間で、そんな間に辞むる人には10万円しか補助しとらんですもん、10万円、その間に辞むる人には。それで、それに対する不満が一番大きかみたいですよ。前んときも、この前んときにですね、退職金闘争ばしとっですよ。それで25年から30年か、30年ぐらいでですね、90日プラスか何かにしとっですよ、90日分、賃金の。それで結構ですね、60何万プラスになっとっですよ、それで。しても間はですね、少なかつですたい。それにゃあ、やっぱ不満もあるごたっですな、間が。

松田 退職金闘争っていうんですか、それも非常に組合員の切なる願いだったわけですよ。だから、私はもう会社辞めてから30何年なる分らんけど、退職金いうのは、そのときの基本給ちゅう本給掛けるのですね、勤続年数に対しての料率なるんです。だから5年長いちゅうこと物凄く有利になるわけです。だから、それからその賃金体系そのものがですね。

福原 給与水準でまた変わってきますよね。

松田 はいはい。だから、社員は本給は余計上がるけれども、普通は手当の方が結構、こう上がるちゅう形でですね、そういう案外、形、まあ今は職能給になっとるけど、それでも社員の方がそういう本給、職能給の上がり方っていうのは高いもんですからね。だから今、言ったように賃金体系も今、一本だし、それと勤続年数が長くなったってことで、退職金もおのずから大きくなるということですね。

磯谷 工員の場合にはやっぱり職務給っていう形ですか。だから例えば社員は職能給で月給制ですよ、もともとですね。そうすると工員の方はそれぞれの職務給っていう形ですか。それぞれの仕事のところで。

山平 職務給ちゅうか。

大戸迫 何か知らんが、日給ですよ。

磯谷 ええ、ええ。

山平 工長とか副工長とかそげんとがあつとですよ。

磯谷 職務給ですね。

山平 上級職とかな。

磯谷 仕事についてもう全然、賃金が違うわけですね。

山下 それぞれに階級のついて。

山平 やっぱですね、6つぐらいからあります、工員にも。上級とか、工長とか副工長とか
なんとか色々あつてですね。

山下 職長とかね。

山平 あるごたつです。

大戸迫 かなりの差があつちゅうことです。社員と工員との差がもうむちゃくちゃ、
もうボーナスなんてとんでもない。

松田 どこかに書いてある。

山下 資料のどこかにね。格差がいくらだつちゅうのは書いてあるです。

山平 写真集の中にね。

磯貝 そうですか。

小形 最初の方です。

山平 何年のところだつたかな。書いてあつですね。

松田 前までだつたかな。

山平 これ、ちょっと資料として入れときました。

花田 だからこれはね、昭和9年の数字なのよね。

大戸迫 あ、(昭和)9年ですか。

花田 戦後のやつないかなあ。

小形 というのは、(昭和)28年の時点ではまだ分らんかった。資料が整備されれば。

山下 いや、あのですね、組合の資料残ってます。賃金とか退職金の変遷なんかも全部。

山平 社員と工員の間に、さっきんごて5段階あつてな。そこはちつと出てました。

山下 もちつと整理したうで議論せんと、それが理解できんばなかなか。

花田 まあ、細かいことはちつとね。また資料をもとづいてすすめなきゃ。

小形 それは民主主義ときの資料として作つたのがそれですかね。その中から拾いだしたわけですから。そんな時はまだ、今、資料としたら精細もんがあるはずですから。それはちつと調べたほうがいいかなと。

山下 あの賃金とか退職金ですね、ずっと変遷ば書いたつばあるとですよ、年度別に。大したもんだと思うですよ。

水俣の低賃金

山平 そっと私が今日、見てびっくりしたつがですね、昭和29年たい、まあ私が29年にひっかつととばってんか、基準内で1万3千円ぐらいあつとですよ、工員で。

大戸迫 何が。

山平 基準内賃金が工員で1万3千円ぐらいあつたんですよ、水俣。ほいでやっぱ結構やっぱ良かったと、おら思うとですよ。

花田 昭和何年で。

山平 29年で。

花田 そんな高かったですか。

山平 うん、あつとですよ。いやそん、出とつとですもん。ほんで、賃上げを要求すつときに。

花田 そら学卒以上ですよ。

小形 やっぱそのときのですね。

山平 そらおっで、かなり高いと思うたつですよ。

小形 対外的な問題を。

山平 基準内です。

山平 私たちが(昭和)38年に入ったときに、9千円しかくれなかったんですよ。1万1千円になってたけれども、春闘が解決しとらんけん9千円やったつですたい。そっから見ればですね、かなり、かなりの額と思うとです、それば見て。

花田 なんですかね。

山平 それで、その時に賃上げを要求して、賃上げなれば1万5千円いくらになりますとという、ちゃんと比較はあつとですよ、平均ですけども。水俣平均。

花田 それは平均でしょ。

山平 水俣、もちろん水俣。

山下 組合員のあれじゃなか。

山平 いや、組合でしょ。

花田 違う違う、組合の工員の平均でしょ。

山下 平均じゃろ。

山平 社員じゃなくて。

花田 社員じゃなくて。だったら分かる。

山平 社工員、社員、工員。組合員の平均です。約4千、3千いくらぐらいおったけん。

花田 37〜8歳ぐらいの平均か標準賃金かていうか。

山下 平均か。

大戸迫 平均だ、平均賃金じゃな。

花田 まあ、そこはまだ標準賃金って言わんですね、平均っていうか。

山平 平均賃金ですね。

花田 ああ、びっくりした。工員で1万1千円で。

山平 なん、水俣がやっぱ。

磯谷 それにしてもやっぱり高いですね。

花田 いや高いですよ。

山下 (昭和) 31年に私、入社したときはですね、日給226円で6,600円ですよ。もちろん中卒だったですけどね。

山平 そっで、そのへんかよっか高かですよ、よう考えてみれば。

花田 254より安いじゃん。

山下 254より安かですか。(昭和) 31年に226円。日給。

花田 よう分からんけど。

山下 私たちのときは(昭和) 31年だったけど日給月給だったですもんね。

山平 んでやっぱ、今も一緒ですけど、本社も入れれば全社は平均が上がるから、水俣は低かかな。そんな頃はやっぱり水俣は本社と比べれば低いですね。まだ連合会は出来とらんとですよ、協議会ですよ、こん頃は。大阪と東京はな、連合会は出来とらん時代やっで。一応、協議会やっで、協議会で一応討議は一応ある程度、討議はすつとですよ。全社員ちゅうとは結構高いて。ほいで、オールチッソとは水俣ベース、水俣ベースでなつとつとです、要求は。オールチッソじゃなくて。

花田 えつとですね、昭和28年、1953年でしょ。だから、これもこれだけの大規模ストをやるには、50何日、これ写真集にずーっと出てくるやつですよ、最初の。

山平 そうですね、この最初の大きいストライキちゅうのはですね。

花田 それはもうお祭り状態ですよ、これね。この頃は第二組合もないわけでしょう。

大戸迫 はい。

山平 もちろんないです。

花田 ほんで、スト破り、ピケ対策しとるわけだけど、誰がスト破り行くんですかね。係長、主任がスト破りに来とったわけじゃないでしょ。この頃は。その頃はまだ、その人たちも組合に入とったですかね。

山平 もちろん、もちろん。

松田 係長以下。

山平 係長以下は全部なつとるけん。

花田 ですよええ。

山平 だけん非組合員ではいくらかあつとですよ。そん、例えば工場長では、運転手は引っこ抜いて。

徳永 執行部は誰だったかな、そのときのピケのその。

山平 鬼塚義貞。組合長が鬼塚さん、副組合長が村上さん、ほんで書記長が戸次さん。(昭和) 28年がですよ。

徳永 やっぱ、そういう予感があったのかな。

山平 知らん。(昭和)28年はですよ。

小形 それで(昭和)28年のチッソはですね、今あれが、内谷の発電所の工事にかかったんです。

山平 そうです、そうです。内谷。

磯谷 ウチダ？

山平 内谷(ウチダニ)。内谷発電所であつとです。

小形 電所の建設に入ったんです。これはアメリカの見返り資金を使ってやるという形で始めたんです。その時期が(昭和)28年で。

花田 多分ね、チッソが朝鮮特需の影響を受けてるかどうか知らんけども、業績がぐっと良くなって行って、で、工員たちもね、「こらあ、俺たちも取れる」というね、なんかそういう雰囲気がないと、こんだけのストライキ出来んのじゃないかなあと。

山平 それとですね、そこ取れんとわからんけど、会社の方針、会社の考えがですね、さっき言うごと、朝鮮から帰ってきとるでしょ。それでかなり余剰人員がやっぱおったらしかそうですよ。会社の考え方、そら組合もやっぱそげんじゃろうと思うとたいなあ。もう4千近くおるわけですよ、組合員、従業員が、その頃は。朝鮮から引き揚げてきて入っとるし。んで、その辺があつてですね、会社も割と株主には結構、よう配当しよるわけたい、1割5分とかな。配当しよるわけですよ。しかしその従業員にはやっぱなかなか回さんちゅうのがあつて、雰囲気として。

花田 ただ山平さんね、昭和28年まで余剰人員抱えてる会社はないんですよ。引揚者、どこかの化学工場でも、戦後そういうふうになーっと引き揚げてくるんですけど、昭和22、3、4までですね。だからいろんな会社で大規模ストライキするんですよ。東芝とかなんとか含めて。

山平 そう言って、組合もそげん雰囲気やつたと議事録から見るとですよ。会社もそげん言うんですよ、やっぱ。

花田 ああ、そうですか。

山平 はあ。ほで、さっき言うごと、あの合化労連の前は硫安協か何かっつとに、組織入りよつたですよ。それが合化労連のごた形になつとつとでしょ。で合化労連の中ですね、日水とですね、別府に何かそげんが、あの別府化学かなんかちあつてですね。そこがだいたい一番、最低基準しかなかった、らしいそうです。そこで、やっぱ賃上げ取れとらんとですよ。何年かは。最低だったそうですよ、見てみれば。で、せいぜいそこまではちゅうて、執行部に言うばってんなかなか取れんとですよ、あつて見てみれば。緒方さんの時代にも1回賃上げしとつとですがね、この(昭和)29年にも、やっぱ取れとらんとですよ。

山下 あの、江口正春さんは、チッソの賃金な世界で2番目に低かって、エチオピアの次がチッソの賃金じゃち(笑い)。

山平 いやそれはあっぱ見てみれば、日水と別府化学で何かその、そこよりや、全体的にはわからんばってん、そん賃上げは低かったって、せいぜいそこまではちゅうて言うとととですばい、やっぱ。ほいでよっぽど低かったっじゃろなて思うわけやな。

大戸迫 まあしかし、賃上げとかでは、社員工具共通した利益だけでも、身分制撤廃闘争で分裂しなかったのは今もって不思議ですよ。もう社員層にすれば一銭にもならんストライキでしょ。

山平 そういうこつあったんじゃろな、雰囲気があつてな。ほいでやっぱ、そげんしたごて、結構あやふやなかたちで収めて、な。んでさっきんごて虚脱感のごたつとば与えたとかちゅうな格好でしょ。だいたい松田さんな、ある程度取れたて今は評価出来ると思われるったい。おったわけばってんが、データとしてはそげんではなかったわけでしょうけど。全部先送りやったばってんな、言うてみれば、問題が。全部、先送り、先送りやって、そん時は取れとらんわけですけん。

徳永 だけど、そのうち分裂しとればさ、会社は会社やめんかったと思うよ。社員工具で分裂してさ。あっちゃ会社も何も分裂させられて、まとめていこうちゅうやつがあったやないかと。

大戸迫 いや、恐らく会社は分裂さしたら困ると。

山下 行き先があつて低賃金政策。

大戸迫 そうそうそう。あったろうと思うなあ。

山平 それはあつかもしれんけどさっき代議員会の雰囲気ちゅうとがだいたい、代議員の名前は書いてなかですけども、もうほとんどそん、ほんなこて後で部長とか、河島とかムラコシとか何とか出てくるわけやけん。そん頃はな、だいたい。役員の名前ちゅうか、要するに会社側の委員会の委員の中とかいろいろ出てくるわけでしょ。

徳永 （昭和）28年勝つてもさ、あらためんだったもんね、会社は。

専従と議員兼業

花田 この鬼塚さんってのは学卒じゃないんですか。

山平 違いますよ、違いますよ。

花田 長いですね、組合長時代。

山平 はい、相当長いですよ。

松田 だからその人に重箱を。

山平 結構、やっぱ自分ばっかでしょ。後でにゃあれは市会議員じゃ社会党の左派になったですよ。社会党の左派だったですよ。

大戸迫 いやあ、記憶もありますがね、ものすごいアジテーションの上手い。

山平 結局、落ちてったんですよ。

花田 ああ、そうですか。

山平 そうですよ。

山下 あん時、月にガガーリンが届いてからしてから、地球は青かった、鬼塚の腹は黒かったちゅうて（一同笑い）。

松田 いやもう、身分制撤廃闘争までは我々も、鬼塚ちゅうのは本当にこれはなかなかやるよねっちゅう、こういうふうに見とったんですよ。いやそのアジテーターちゅう意味で、そりゃもう組合大会でもですね。

山平 やっぱ、演説上手だったけんでしょ。

松田 うん、上手。

山平 ヒットラー、ヒットラーごたったんですたい。あら、上手だったてですばってんか、あらヒットラーですか、なあ。

大戸迫 ですから、市議員だけはトップ当選ですよ。すごい、人の何倍取ってトップで上がった、組合長の頃はな。

山平 んでその頃、市議員じゃっでな。市議員です、この頃は。

花田 市議員でいって、組合長。

山平 はい。ほんで、補欠選挙に村上さんが選出されるばってんが、組合長と副組合長が両方出ればやっぱダメだって、一部、村上さんにゃ我慢してもらうごた格好になっとるわけですよ。

花田 その頃は、専従は。

山平 専従は6、7人ぐらいですね、ほいで闘争後は全員専従です。

福原 社員で、組合長で、それで市議会議員も出来るの。

山平 出来ます。

山下 非組合は課長以上が、それと職場によって人事部とか何とかが非組合員で、あとは組合員ですから、全部。

福原 いやだからその、社員でありながら。

山下 社員であっても出来ます。

山平 職歴、兼業、関係なかつです。

松田 私企業は関係なかつです。

山平 民間企業は関係なかつです、民間は。公務員なちょっと関係あつかもしれんばってんが。

福原 今でもそうかな。

山平 民間な関係なか。

山下 あ、公務員はダメですけど。

花田 在籍専従を認めんからですね。一旦籍抜くんじゃないですかね。

山下 でもうちあたりはまだ抜いとらんですよ。

花田 あ、そうですか。

山下 はい。

大戸迫 在籍もあるごたんな。

山平 在籍もある。

山下 県議と市議はあつとですよ。市長になれば抜くつとですよ。

花田 じゃ、休職扱いでやるのかね。

山平 休職扱いで、要するにそん、組合専従になっても、結局は勤続年数は通算ですから。

関係ないですから、やっぱ会社の退職金貰うときにはやっぱ通算になりますから関係ないです。

花田 それはまるで、御用組合はそうしてる。

山平 うちん御用組合ですたい。あ、でもうちのごて半年ストライキしたっちゃ一緒でしょ。

半年も関係なかわけでしょ。180日ストライキした(昭和)37年も。あれも勤続年数に入るわけですから。

大戸迫 ですから、現場のですね。

福原 現代までそんなもん。

花田 そんなもんよね。

大戸迫 だから、市議会、議会なんかあるときにはちゃんと公務員、こら公務員やったんかい。時間取っててやるんでしょ。

山平 あ、公務員です。

大戸迫 これは公務として扱うとやろ。ですから、現職で現場で仕事をしながら、市会議員の人が大手を振って議会におったですたい。何か、賃金カットなんか全然ないわけ。

ユニオンショップと労働協約

山平 それからちょっと変わって、こん前、特徴ちゅうか要するに査定分ばプールしたとか言うたでしょ。この頃もそういう兆候があつとですよ。さっきんごて、保安要員が出れば給料が出るでしょ、会社から。あれは一部は組合にやっぱ納めんばいかとですよ。納むつとてなつとつとですよ、確か。書いてあつとですよ、納めてくれろと。そいでやっぱその頃はそういった風潮ちゅう、そういうのがあったんじゃ、たいしたもんじゃねえと思って、何かあればけっこうね、しとつとですよ。この(昭和)28年の熊本の水害があったでしょ、大水害が。あれですね、執行部が10万円手配したんですよ、見舞いにやろうと。したら組合員からね、10万円は少なかと言うてな、20万出しとつとですよ。カンパして、強制カンパで。おお、そげんみんな、やっぱあったんじゃねえって、一応、俺が感じがしてですね、あれば見てみて、そりゃほんで執行部が10万したばってん、うんね、そっじゃちゅうて20万ちなつとつとですよ。

松田 おお、そうね。

山平 はい、代議員会で。

花田 ストライキ中は賃金出ませんよね。それに関する要求はしてるんですかね。

山平 あの、ほんでですね、その頃ですね、唯一ですね、組合にくらしたつは、スト引きは一時金でせと。そん前までしととです、スト引きは。183分の0.8で、0.8で書いてあった。おっどま、1やったばってんか0.8になっとる。でこん時はな、そっだけは取ったつですよ、スト引きせんごて。

花田 ちょっと待って、その180分って。

山平 要するに半年が180日ですよ。180日でしょ、半年分でしょ、賞与ちゅうとが。そっで183とか182とかになる、365ですから、割れば。で、その1が普通のお休みでって会社、引くとですよ。ほんで病欠も1で引きます。そすと、自己欠で4かな。あ、無届けで4か、自己欠で3か。

松田 3、3、3。

山平 自己欠で3で、無届けで4、要するに自己欠でん、無届けですればもう4になっとですよ。そげん引き方を今も会社はしととですよ、一時金のときは。そして病欠も1ヶ月、1ヶ月以上かな、なればもう査定がゼロですよ。なかつですよ、査定が。ほんでさっきストライキしたときは査定があるとですけども、こんとき唯一ですね、さっきのごてスト引きば、夏の一時金ではせんごて取ととですよ。あらー、やっぱ強かつは強かったっじゃねえと思って。そしたらさっきん話じゃなかばってん、聞けば、鬼塚がそげんあったけん、そげんした雰囲気で、いつまっでん組み合わせればそげん思われたって、会社もしたっかもしれんですけど、分からんけど。見とらんとですよ、おれは大したもんだねえと思ってですね、スト引きば会社がせんごて話し合いしとるもん。ストライキも、その後ストライキはほとんどしとらんとですから。

山下 他んときは全部スト引きしとるですよ。

花田 いやいや、それは。

福原 その身分制の闘争のときですね、組織率100%なんですか。係長筆頭に。

山平 はい、100%。

山下 ユニオンですから、会社、ユニオンですけん。

山平 そら100%です。

福原 どの時点で、いきなし100いったら出発するんですかね、組合が出来たら。組合出来た当時は。

山平 じゃなかつですか、私よく知らんけど。

山下 やっぱし、非組合員はおっとじゃなかですかね。

福原 非組はいますよね。

山平 さっき言ったように。

徳永 課長以上は。

山平 会社が指示する人たい、課長以上と。

福原 課長より下は、その組合の結成当時は管理職がだいたいその中心になるわけでしょ。

山平 非組合員のもでしょ。

福原 ええと、係長、主任クラスが組合作ったときの主力だったんでしょ。

山平 そら、そうじゃないとですね。

徳永 ああ、創立時ですか、(昭和)23年ぐらいのね。21年か。

福原 で、彼らは現場の人たち引き連れて組合に入るって、そんな動き。だからかなり最初の組織率は高かったんですよ。

徳永 もう、組織率にすると100%。

福原 ですよ、いきなりね。

山平 そんで、会社のごて非組合員は名前を挙げてですね、さっき言ったように職制以外ですね、課長以上じゃない奴は名前を挙げて、会社が「これが非組合にしてください」ちゅうお願いはしとつとですよ。例えば勤労の普通の係員とかですね、それと車の運転手とか。

松田 保安要員。

山平 保安要員とか、そういうのは会社がちゃんと名前ば挙げて組合にお願いしとつとですよ。

徳永 原則としてはね、課長以上を非組合員に。

福原 そうですよ。

徳永 あとは全部組合。

山平 まあ、係長になってからは発電所の所長くらいですね。こっちに帰れば係長らしいそうですね。

花田 そういうあれは残ってます、ユニオンショップの協定書みたいのは。

山下 それはどっかあります。

山平 どっかあります。

松田 労働協約の中に。

山平 それは労働規約の中に。さっきんごて労働協約は結構やとつとですよ。

福原 労働協約は(昭和)28年だっけ、30年でしたっけ。そのときにきちっと出来たんでしょ、形としては。じゃなかったっけ。

山下 それは改定なんですよ。

福原 改定。

山平 労働協約は結構ありますよ。

山下 はい、改定協定でかなり。

徳永 初めからあるんじゃないかな。組合結成と同じくらい。

山平 はい、労働協約が結構やとつとですもん。組合がな。こらあ大したもんじゃち、労働協約がどしこ力入れとるばいねと思って。

花田 ただね、僕も正確に覚えてないんですが、(昭和)20年代からそういう労働協約って、包括的労働協約を結べっていうんですね。1個1個の争議で協約なり協定を結んでいくんですが、包括的な協約結んでない組合が結構あって、それを包括的にすると。一本に

まとめるっていうふうな運動は他の争議ではあるんですね。チッソはどうなってるかよく分からないですけど。

山平 いえ、その退職金についてもさっき、そんほんのごて、定年延長とか退職金なんかで出っかがですね、期限が切れた労働協約を会社が延長したいちゅばってんが、組合はもう拒否しとるとですね。もう要するに、組合にメリットがなかごた協約ば結ばんという格好にしとっとか、文書がありました。あら、組合もこげんこっばしよったんかいねと。

磯谷 今の包括的労働協約っていうのはどういうことですか。

花田 えっとね、まあ労働協約自身はね、賃上げのときからいろんなことで結んでいくんですよ。それをね、一本の就業規則みたいな労働協約にするっていうのがあって、今チッソがどうなってるか知りませんが、日産のときに追いかけてたらね、そういうのが出てくるんですよ、昭和20年代、特に。でそれまでは、いくつも何本も何本も、いろいろなね、個別の協約、協定書が出てくる。これをまとめる。

磯谷 まとめるっていうこと。

花田 うん。

組合の成立と会社の労務政策

福原 今、何か話、聞いてるとね、身分闘争でその組織なりいろいろ、ごたごたあったようだけれども、それで会社の方の身分制に対する圧力も差別的にきつかったって話なんやけども、労働組合、何かこう、成立に関しては意外とスムーズにずっと出来てるような感じがしてね。だから意外と、確かにドンパチやりながらも、会社側は意外とこう「好きにお前らやってええよ」みたいなところはあったような、何かイメージが、聞いてて、すごく。

山下 そのへんはやっぱり労務管理としても、労働組合を作ったのがいいと。

山平 そうなんですよ、私もそう思いますよ。さっき言ったように。

徳永 就業規則と労働協約だったら、何かこう一緒に作っていった感じがするんですよね。

福原 だからそれは、何て言うのかな、チッソという会社のそれ以前の体質とね、戦後民主化の中で、戦闘的労働組合が出来ていく中で、水俣のこのチッソの工場で作出来たものに対しては、まあ比較的寛容で対応、うーん、まあ、寛容に対応したのかなと。

花田 組合そのものに対してが。

徳永 寛容かどうかは知らんけど、そら外部の引揚者があるので、朝鮮からの引揚者があるもんやから、たぶん、わりかた考え方はやっぱり水俣の労働者よか、向こうの人が先、行ってますからね。たぶんそういう人たちがいるから、並行的にたぶん行ってるような感じはしますね。

山平 こん、見てみっとですね、鬼塚義貞だとか平口さん以外は、ほとんどやっぱそん、ほ

んなこて学卒連中がしとるとですよ、組合長は。だいたい。うちん組合のは、出来た当時はずっとだいたい。レッドパージまではだいたい共産党あたりが、平口さんあたりがしとっとですけども。その後、鬼塚義貞ですけど、それ以外はほとんど今のごた組合長とか、書記長とかそういう組合長がその鬼塚義貞だったんの間に一人は学卒がおって、要するにその、睨みば効かしとるわけでやっぱり、山崎ごた会社の労務管理長が。私やそげん思うとります。そんですんなりさっき言ったように、組合作るときもそげん抵抗なかったっじゃなかるか。

山下 だから戦前の組合がよう出来とらんときにストライキなんかやってるけんですね。だけんだいたい差別があったもんだけん、そういう形で労働者はまとまっていったと。そういうところはあるんじゃないですか。

大戸迫 いや、私が若い頃聞いた話ですけどね、よく組織、まあよその会社で、社員組合、工員組合っていうか、そういう組織があったわけですよ。まあチッソの、新日窒の組合は社員も工員も一緒にした組織だもんだから、非常にふにゃふにゃしとるけどもですね、脆くないといったようなことを先輩の指導者から聞いたことあったんですよ。まあ強いこと出来んけども、社員層も混じって工員層もごっちゃになってやっとなるから、ふにゃふにゃしとるけども意外と折れないんだというようなことを。これも一理あつとかなあとその頃思ったことがあったんだけど。炭鉱あたりが社員は社員、工員は工員って組合が出来とっとじゃなかったんかな。

福原 戦前はそういうの多いですよ。

山下 私は農民会の対応とか漁民の対応は見とってみて、やっぱり会社は労働政策ちゅうか、そっちが上手だったんだなちゅう感じはしとっとですよ。

大戸迫 それは確かに上手いんじゃないかと思う。

社員－工員の関係性・家庭的雰囲気

福原 いやまあ、そういう身分制はあるけども、実際その現場でね、職制の人たちと工員の人たち、あるいはまあ、もう一つ上の管理職の人たちとの関係っていうのはどうなんですか、やっぱ対立ってのはかなりシビアなのがあったんですか。

徳永 よくあったんでしょうなあ、あれは。

松田 そげん対立ちゅう感じはあんまし、みな持たんかったんじゃないんですかねえ。

徳永 そこまではあれ、考えるあれがなかったと思うんですよ。もうこのね、社員工員と、この溝を考えるなんちて、本当癒着してくっちゅうか。たぶんこれは水俣人の何か知らんけど、そういうもんがあったんじゃないかなと思うんです。

山下 家族的雰囲気、昔よりは家に呼んでご馳走せろとか何とかあって、正月なんか、盆とか正月末に、どんどん行きよったんですよ。

山平 でさ、闘争あるまでそうやったらしかったんですよ、(昭和) 37年の。

山下 だけん、上手い具合にやっぱやりよった。

福原 (昭和) 37年。

山平 はい、(昭和) 37年にあの大きいストと、要するに分裂するまではそうやったらしい
そうですよ。

福原 要するに、非組の管理職のおうちに行くということですよ。

山平 正月なんかもう、行くのが当たり前。

徳永 なんかやっぱこう、ばんばんばんこう、やりよったですもんね。

山平 ようするにそん、会社としては、さっき言ったように査定があつてしょ。月額で査定
やるわけですよ、彼たちには。要するに社員教育ようかしらん。でしょ、だから。私た
ちが1ヶ月に私たちが貰うしこくらい査定は貰うわけですよ、彼たちは。要するに。

徳永 社員、社員。

福原 正月に、その部下の人たちは部課長さんにね、付け届けをしとかんと、後で何かえら
い目に合うとか。

一同 そげんとはなか、そげんとはなか。

山平 それ、そげん人がおったかも知れんけど、そげんとは聞いたことなかったなあ、ばっ
てんなあ。

福原 いや、何かそういう話をまあ別のところでやるんですよ。だから結局、変にその上
から圧力強かったらそういうふうになることもあるし、でもこの水俣のここのチッソの
工場ですね、そういう雰囲気とは全然違う。

山平 違うち思いますよ。はい。

福原 雰囲気。

徳永 そのへんはやっぱそうあったんじゃないですか。

山平 だから、あった人はそん、ほとんど脱落していったわけでしょ。

一同 そうそうそう。

山平 そうやったち思う。やっぱそうでしょ。聞いたですよ、私、そげんた。あー、あら、
あげんしよったち言わす。

山下 いやそん、私たちが(昭和) 31年に入ったときにもやっぱり、入るために米1俵やっ
たとか、そげんとば話、聞いたりとかしよっですもんね。

山平 いやそれはそうでしょ、昔はさっきんごて、小形さんとか職場なんかのもそん。何
ちゅうか、職人気質だったけん、そん長はある程度、採用権あったらしいそうですけど。
人事権ちゅうとは。

小形 人事権はですね、組長ぐらいのやつが「おう、お前ら明日から社会に入ってこんか。
何しよったか。んなら明日から来い」って、これぐらいあったわけです。

山平 あつたらしちゅう話なもんですね。そぎゃん話聞きますからね。んなら、さっきん
ごてな、いくらか持って行ってけども。

福原 それが効かなくなったのはいつごろなのかなっていうのも結構、興味。

一同 闘争後ですよ。

福原 闘争後。

徳永 闘争後、(昭和)37年以降。

小形 (昭和)37年でしょうね。

山平 それがほ、また。

花田 この争議は。身分制争議の57日間ストは。

山平 そら、そげんなかったじゃなかっでしょうかね。

松田 そんなときは組合が割れるまでは、そげんなかったんじゃないかと思いますね。だからさっきおっしゃったように、自分たちが知っている範囲では、正月なんかだいたい係長課長のお家には元日に行くと。それが普通だちゅうような感じだったんです。そして向こうも必ず待っていると。その待っていたおりかたもですね、もうその尋常じゃないっちゅうんですか。それはもう、みなが来るから、その結局自分が部下に、みなに應對ちゅうんですか、出来かねるから、酒の強い人間をまた1人か2人雇って、自分がつぶれた後、その連中にですね、これをしてもらおうと(一同「おおー」)。そしたら料理も実に立派に、もうちゃんとしらえてあると。そん中で一番僕は、美味しかったーちゅう思うのは、肉のちゃんとサンドイッチの、肉を挟んである朝鮮漬け(一同「おおー」)。これが一番やっぱし、これは美味しかねーと思うて食うたちゅうのがあります。したらは、江南帰りだったもんな、係長が。

山平 んで、かなりですね、さっき言ったごて賃金の差があったでしょ。それでこれはやっぱ裕福だったらしかとですよ、課長連中は。

大戸迫 いや、私もそう思いますよ。

山平 女中さんなんかもおったわけですから、陣内社宅なんかには。ちゃんとかとあって、ピアノは大ごと、水俣には陣内社宅ぐらいしかなかったわけですから、だいたいピアノがあつところは。家庭の。

大戸迫 ですから古参のですね、組長クラスが「あん課長さんな、うんと貰とった」で言うたらあかんと言うてぞろぞろ、古参の組長クラスが若手を引き連れてもう、いわばストームですたいね。あれは自然に行きよったですから。だからこっちも何もなかったときは、まあ若い頃は、偉いさんは余計もろとるから。行ってもいいんだちゅう感覚。

山平 うんね、そげんやったでしょ、闘争前は。寮にもな、独身の寮なんかにも行きよったって話聞くですよ。

山下 いや、ストームもひどかったみたいです、水俣は特に。うちの親父はですね、習字書きよったでしょ。だけんストームいかんとは襖でん障子でん、もうガラリやってくれて。誰やったつけ。

松田 いや寮なんかはもう、誰か酒飲んで帰ってくるときには、それは戸や襖、障子は開けとかんとそのまま全部入られてしまう。おい、帰ってきたぞいち言うたら、廊下を下駄履いたままガンガンやってくるわけですから、もう障子は開けて待っとかんと。それも

う普通だったですね。

山平 うん、そういう話聞くですね。

大戸迫 下げていくところで飲みに行くと、たかりに行ってたい。

山平 そうそう、そういうふうだったらいいですたい。

松田 そういう話はどっかに、現場そういう人たちに聞くと分かるたい。私は土建課だったから、必ず業者ちゅうのが一方にいたわけですよ。

大戸迫 ああ、業者がね。

松田 うん。結局、建築だったら、建築関係の業者がいっぱいおったから、その連中もまたちゃんと、付け届けはいっぱいしてあったじゃろうちゅうてですね。もう確かに私たちも、年末とかお盆には必ず、業者の接待で麻雀大会じゃ何じゃちゅうのがあって、商品ば貰って帰ったんですよ。そういうのは、例えば職場では必ずしも同じじゃなかったかな。我々みたいにそういう土木とか建築とか。

福原 その当時、その、組合の役員さんのところには、正月は行かないんですか。委員長さんとか。

山平 そげんとは行かんじゃろうなあ。どげんとかな。

徳永 そげんでも近い人は行ったんじゃないかな。近い人は。周りの。おら、ようとは知らんけど、そんなのは。

山下 どぎゃんですか、執行委員しとつとは、副委員長とこって（笑い）。

徳永 そぎゃんこつんありよったかな。

福原 だいたいまあ、その職制の先輩が上の人やけども、2日目は組合の方とか、そんな。

松田 組合が行ってから、組合が寄って帰るっちゅうのはしよったですね。

山下 それは組合でちゃんと準備しよったけんですね。

松田 組合に寄って帰るちゅうの。だから会社帰りに寄って帰るっちゅう感じ。

徳永 村上さんがやったでしょ。組合長やったの。組合の奴は来よったばい。

松田 ああ、家に。

徳永 はい、家に、はい。

山下 ああ、村上さんは何かしよんなはったごたんな。鬼塚さんたちも何か行きよったごたったですもんな。

徳永 うん、うん。

山平 カミ（村上）さんな、市会議員もしよったしですね。

山下 市会議員しよったけんな。

山平 闘争後の、市会議員だったなですけんな。

徳永 そうだったな。

山平 そげんた、あったかもしれんですね。はい、そうてですたい。

職制の査定

小形 まあそれはあったでしょ、ちゅうのは、私は直接この西村ちゅうあれがおったんですけど、係長、係員がいて。「君は外交が下手だから、持って来い」っちゅう馬鹿なことを言われたことがあるんですよ。それで、「西村、おれ、自分の実力以上のことまでして、偉ろならんちゃよかですよ」って言うたら、それで終いやったですね。そん代わりそいつは、それ以来、私は全然ダメ。やっぱそういう職制も、そういうふうな目で見てる連中もいたですね、確かに。で、私たちは結局、製造部門じゃなかもんだけん、技術部門なもんだからやっぱ、「何か、おまえが言うたって」っちゅう気持ち、いつも持ってたでしょ。だからそういうことは言われたと思うけど、やっぱ製造部門なんかでそういうことを言われると、やっぱ俺もせにやいかんかなというふうに考えるでしょ、そりゃ。

山下 賃上げとか一時金とか査定分ちゅとはあったでしょ。んでそれは職場でよ、職制がやりよったけん、やっぱそげんたあったんだらうなあ。

山平 やっぱ職制がそれを査定しよったけんですね。それは確かにあったなと。

山下 ようしとかんば、査定が悪かけんちてから。

山平 そんで今、査定のことやって、そもやっぱさっきんごて身分制度関係すつとばってんが、おっどま闘争後、要するに（昭和）37年後しか知らんけん、かなりやっぱ抵抗感があるがな。ばってんこん頃は査定に対する抵抗がな。やっぱほ、組合が良くせんとやっぱ会社が出すでしょ。やっぱ拒否するでしょ。やっぱ、組合の影響力のだいぶあつですもん。

小形 それで課長以上には接待費っていうのは出るんですよ。

山下 出るらしかですね。

小形 給料以外にそれがやってあったんですよ。

徳永 やってあつとでしょ。

小形 ほんで課長で、若い課長でいくらか、いろいろ段階があったんですよ。

大戸迫 会社の労務管理の一環だな。

山下 そうですよ。

山平 そうですたい。

山下 で、不満ばそれに。

山平 んなこて、おっどま今まで、今んごてじゃ現役じゃちゅうて言いよったたい。さっき話じゃなかばってん、例えば係長やったっちゃもう行かんがな。今、係が覗くでしょ、査定全部。覗くわけでしょ。ほんで係長が、私たちが貰うくらい査定は貰うわけ、査定分ば。で言わば残業の代わりのごたかたちで会社が出すわけでしょ。で、仕方なく残業もせえて言うごて言うたつですよ、ほんなこて。もう今はもうほんなこて何ちゅう、今の係長とか主任はもうほとんどサラリーマンだけんですね。やっぱ時間がくりゃパッパ

帰りますからですね。もちろん残る人もおるけど大半がそうだから。昔んごたなかけんな、だいたい。そげん言いよったですたい。しゃんむ、あつどま残業せんとなちゅうて、見とって。要するにおつどんがもらうしこあるけん、査定分な。それこそ100万近くもらうわけですけん、査定分はですよ。

福原 それ、今の金額に直すとですか。

山平 そうです、今の金額で、例えば私たちが80万ぐらいなら、総額貰えりゃ、その80万ぐらいは査定分で貰うわけですから。今の係長あたりちゅうとは。

徳永 残業せんでももらえる。

山平 残業代ちゅう形ですね。

徳永 残業せんでももらえるちゅうのがな。

山平 そうです。

高橋 (横田?) 重光。

山平 そうそう、重光。

高橋 重光け。

山平 そう、重光。はい、書記にな。ヨシダソウタ。代議員がやっぱたまり場やったた、そんなときにはな。

日常の組合活動と文化活動

福原 ちょっとまたつまらん質問するんやけども、この当時ね、昭和20年の後半、まあ30年前半、旗開きとか、お正月、組合で。

山平 それはなかごた。あったですか。

大戸迫 旗開きはいつからしたけな。

山平 今、議事録では聞かんもん、旗開きは。

山下 安賃闘争後はしたなあ、旗開きは。

松田 あった。

山平 闘争後ですか。そん前は知らんばってん。なかなか、そん前は。まだ旗開きの話はいっちゃん出らん。

大戸迫 なかったごたんなあ。

福原 安賃以降ですか。

山平 ち思います。

小形 そうですねえ。

山平 そんな、例えば代議員会の一番最後には、今でも最後はいっちゃんお別れ会のごた形で一杯飲んでちゅうごって、まあ車で来るなちゅうごた格好するちゅうわけですね、だいたい。そげんともまだ1回もなかですもん。まだ議事録の中じゃ。まあ、もちろん車はなかばってん、そんな、そげんとをするちゅうとは、いっちゃん今までなか。

松田 旗開きちゅうとはですね、地域ちゅうですか、地協ちゅうですか、地域の、結局、労働組合の協議会、そういうところでまとめて、まあ必ずしよかったけど、単組では、何か最初はなかったよなあ。

徳永 代議員会の最初はやるとかねえ、何かそれじゃないとやっぱやらんもんなあ、代議員会だなあ。

福原 僕はもう、ストライキは非常にまあ面白いんやけどね、日常の組合活動っていうか、組織での中でのやりとりとか何とか、僕としてはちょっと関心があってね。それでまあ、きっかけになるような話ってちょっといろいろ聞いてるんですけど。

花田 何年代ですか。

福原 (昭和) 20年代後半、30年代。

徳永 (昭和) 20年代の職場闘争ってちょっとないな。

山平 まだ、なかっじゃなかですか、やっぱ職場闘争が基盤じゃっちゅうとは執行部ですらに、さらに言いよってですね、それとやっぱ経済闘争が中心ですね。そっとさっきのごて、労働協約、この2つだな。

松田 やっぱ職場闘争というのは、安定賃金闘争があってですね、三池の労働組合が。

福原 いや、闘争じゃなくってね、職場の中での、要するに人間関係。

松田 だからそういうのがですね、あんまし。

福原 表に出ない。

松田 出なかったんです。よく分からんけど。

山平 まだな、運動会もなか時代でしょ。

松田 はい、地域で、職場でな。

山平 会社の運動会もななくらいでしょ。職場闘争もななくらいでしょ。

山下 会社の運動会はあっとじゃろう。

山平 あっとですか。

山下 そら、復興記念祭でずっとあっとっとやけん。

山平 いや、ずっとやなかでしょ。いつ頃やったですか。

山下 復興記念祭は。

山平 なん、復興記念祭は。そって運動会ばしたつはいつ頃からですか。

山下 おっどんが知っとつとは(昭和)20年代ぐらいからあっとつと。

山平 あ、そうですか。そげんたいっちゃん分からん。そげんた代議員会な、いっちゃん話出らん。

徳永 出らん、出らん。

松田 会社が。

山平 もちろん会社がやってんかですたい。

松田 会社で運動復興記念祭にしようたたい。

山平 で、組合としてはですね、やっぱほ、田舎でしょ。でまあほ、映画館なあったですけ

ど、映画とかですね、要するにああいうのはしょっちゅう組合が推薦して、割り振って。映画なんかも。

福原 まあ組合としてもまあ。

山下 文化活動。

山平 文化活動としては結構やとっつですね。そういうのは結構あります。

徳永 映画だけやな。

山平 映画とな、あれが結構あつたい、笑座とかあげんと。ああいうのはな、結構やとっつて。組合がいくら補助するとか、そげんとばしとっつですね。

山平 組合じゃなかですか。結構何かそげんとしよごたっつですね。

山下 組合は組合、会社は会社でまた運動会なんかやとっつですね。

徳永 前進座は会社やから。

山平 どげんやってですね。

徳永 あら組合やな。

小形 そうやな、おら舞台裏に写真取つとるばってん、あれは国太郎や。

山平 うんで、結構そげんとは結構あつですよ。

徳永 あん頃は映画館が4つあった。寿でしょ、太陽館でしょ、日活でしょ、東映。

山平 なん、そら後だけん。

徳永 そら前の話。

山平 そらまだ（昭和）30年代ちゅか、（昭和）20年代はなかですもん。東映の出来たつはですね、おっどんが中学校時代のですね。おっどんが中学校時代だけん、東映は。（昭和）30年のですね、（昭和）31、2年かな、2年くらいかな。

高橋 昔は、あそこの東映のあったところの横には。

徳永 （昭和）30年。

高橋 飲み屋のあったたい、向かいの。

山平 そうそうそう。

高橋 今の岡部病院のところの。

山平 そうそう、そうそう。横にはな。

高橋 そうそうそう。

山平 あの、「さつまや」たい。

高橋 さつまや。

山平 さつまや。

山下 組合から会社に出勤する人がおった。

山平 東映はな、東映はさっき言うごと、おっどんが中学校やつけん、（昭和）30、1、2年、2年ごろかな。

徳永 そのころ出来たつけ。

山平 はい、ほんで寿はですね、日活はその後ですけん、まだ。ほって、太陽館と寿、2つ

あったんですたい。割と、それでしょっちゅうさっきんごて、代議員会の議事録ん中ごて、結構出とるて。それは、議事録の中では。まあ看板でしょ、時代屋とか文化活動もんで。そん中ではですね。

小形 笠置シズ子なんか来ちよるな、そう言えば。

山平 笠置シズ子も呼んどるとですか。

福原 ヘー。

小形 呼んどるとです。

仮議長制度と資金管理

山平 そすと、こんだ太田薫さんが（昭和）26年か7年頃、7年頃かな。あら1回来てますよ、水俣に。写真のあったでしょ、あんのな。あれじゃっち思うとたい。ほって代議員会ば開くときは、必ずですね、議長がやっぱみんなに、代議員会に傍聴する人は必ず了解取とっつですもん、必ず。例えば青年婦人部が何人傍聴したっちゅう、で、発電所から来た人が傍聴したりするなら発電所から来たごて。そってさっき太田薫が、「合化労連の太田委員長が来とりますから傍聴どうですか」と、議長がみんなに、代議員に相談して、了解されて初めて傍聴が出来とつです。ずっと、そういうシステムがあつてでしょ。そすつとですね、議長と副議長があつてでしょ。で、仮議長ちゅうとば必ず決めとるとです。で何の仮議長て、何ばすつとかと、1回も仮議長は代議員会とか何とか、何かいと思うもんね。その仮議長制度は何だったんですかね。仮議長ってかなり選らんどつですよ。

松田 仮議長はその、うーん、しかし。

山平 正副で足りんとやろうけんな。

松田 代議員会の進退になったときなのか。

花田 議長を決めるまでの。

山平 うんね、違う違う。

花田 ではなくて。

山平 それはすつですよ。

松田 それは議長団さんが。

山平 違います。議長と副議長が決まった後に仮議長が決まります、順番としては。そして会計監査が決まります。会計監査もな、投票ではないですよ、こんころは。やっぱ、代議員会で決めとりますから。代議員会というか、その、さっき言うごと三役もやけん、委員長も副委員長なんかも組合長の任命やけんな。ほんで仮議長ちゅう制度で。

徳永 仮議長ち何か、議長とか副議長がちょっと、人手がおらんときにほんと上げるとか。

山平 ああ確かに、仮議長は3人おつとですもん。それなら副議長ば2人か3人でよかそうなもんと思うったいな、だいたいおつどんに言わせれば。ほって、何の仮議長。規約

を見ればな分かったかもしれませんが、規約は見とらんけん分からんですばってん。必ず仮議長が決むっとです、3人決まっとですよ。議長団を、議長と副議長をひとつ決めた後、必ず。

松田 組合規約は見れば分かる。

山平 はい、組合規約は見ればちょっとは分かるかもしれんですけどね、何でかねて、その制度がちょっと分からんとですたいね、仮議長は決むっことが。ほんでよう専門部の部員がな結構、使うとっです。例えば教宣部とか組織部とかに、組合員を部員に使うわけですよ。闘争中は使うもんな、そげんな。闘争後も、ちっとはしたばってん闘争後はやっぱり利用せん。そこまでは結構、組合員を部員に使っとるですよ。で、だいたい書記長が4名くらいおったけんですね、組合の雇とっが。そして、あのごてさっき言ったナカムラちゅうが使い込んだわけでしょ、書記が。あん時ですね、企業資金やったんですよ、それは職場で管理しよったんですか。職場単位で管理ちゅうか、要するに職場内の管理やったんですか。管理は組合ですばってん、会議がですたい。あっぱ、見てみればな、硫酸職場の使い込みも、ナカムラが使い込んだっじゃで、その補充すっとかなんとか提案ばしとっですもんね。職場で書いてあつとですたい。ほんで、どげんしたかたちで管理しとつとやら、上申書にぼやと計算で全部出しとつとですよ、各職場から集めて。

大戸迫 うん、企業資金なあ。

山平 その払い出し上申書ちゅうごたつが。要するに、いくら使うたか、最初はわからなかったそうですよ。で126万使とつとですよ、そんなときに。

徳永 すごいね。

山平 126万。

福原 すごい。何に使うたんやろ。

山平 で、その時は信用金庫に預けとるとですね、彼は。

松田 そうだ、労金まだなかったけんね。

大戸迫 労金な（昭和）37年じゃな。

山平 はい、ほんでおら、ここに書いて、27年に、熊本銀行で（…）書いてあつでしょ。これは議事録にもあつとです、あつたつあ。あつでん、ここは1回も利用しとらんとですたい。何したってどこしたって。住友信託とか何とかは出てくつとですばってん、ここは1回も出てこんとですよ。ほつで江口政春さんじゃなかばってん、何じゃろかて、議事録にちゃんとあつとですよ。肥後銀行と調停した人は。

身分制撤廃後の実態

福原 ちょっとまた身分制の話にからんだ質問してよろしいでしょうか。

山平 どうぞどうぞどうぞ。

福原 その身分、まあ会社は結構、まあその工員体質の差別的だったって話、何回か発言ありましたよね。で、その身分制のもとでは、もちろん工員と職員の間では違うわけけれども、身分制の撤廃の後っていうのは、そういうその、何ていうのかな、差別感、実体としての差別はなくなったけれども、実際、職場の中での差別っていうものはあるんですかね。というのがひとつの質問なんですけど。

で、もうひとつは、一応その企業別組合ですから、まあ係長までは一緒ですよ。で、かなりまあ、管理職の部分と工員の部分が一緒になってるっていう意味では、形式上は組合の中で、あまり身分ってのはあまり目に見えなくなるし、で、会社から見れば一体的に管理できるっていう意味で、非常にこれやりやすい体質でもあると思うんですよ。で、そういう意味では、全体としてそれによって会社に対する信頼感みたいなものがね、身分制闘争終わった後、何か逆に強まったみたい、意識は皆さん持たれたんですかね。まあ闘争ですね、そのストライキやって身分制撤廃のときはもちろん会社と闘うわけですけども、でも身分制がなくなることでもって、会社との逆にこう、一体感がね。強まっちゃうなんていうようなことがあり得たのかなと思って。

徳永 大きく言って、身分制はなくなっていなんです。

山下 安賃闘争までなくなっていないですよ。

徳永 なくなっていない、なくなっていない。

山平 そら身分制自身はほ、希望つつ会社の労務の基本ごたっしょ。ただこら、呼称をなくせっちゅうか、組合、要求しとるわけでしょ、社員工員の。

福原 形式と実態のね。そのことを聞いてるわけです。

山平 ほんで、実態はそのままやったんでしょもん、だいたい。

山下 だからこそ、安賃闘争がかなり強く闘えたんじゃないですか。身分制をって。

山平 わからんけん、私はそう思うとですけど。

山下 そのへんは、先輩に聞かんと。

山平 実際は一緒やったんでしょ。

徳永 そうそう、だから名称は撤廃して、定年がちょっとこう段階的にこのな、上がってくると。それだけやから、中身もいっちょん変わってない。

山平 うん、いっちょん、私もそう思うとですよ。そげんでしょ。そら思うて、松田さんもさっきやったごて、実際も今の体質としてはあるわけですけん、会社では。今もな。

山下 地域闘争。

山平 闘争後、私たちが辞むるまで、私たちが辞むるときもあったんですよ、今はしらんけど。あったっですよ、はっきり。

小形 そう、ある、ある。

山平 そんな、身分制っちゃおかしいけど、そういう感覚は。

山下 呼称は一本になってるから。

大戸迫 呼び方だけ変わったわけたい。たぶん勤続年数だけはくだりですからね。もう5年

かかって55になったんだけど、しかしその給料の差、扱いの差。例えば会社が、熊工とか熊商とか、社員として高卒ば現場で採用するときには、いきなりもうバンとベテランの工員の上に就けるわけですよ。

福原 あああ、そういうもんか。

大戸迫 はい。そりゃもう身分、何というか勤続一緒になっても、それはずっと残っとったですよ。それが続いたから今、山下さんが言ったように、安賃闘争でかなりのマグマになったと思うんですよ。いやもう完全に会社が差をなくしとれば、あざん争議はなかったかもしれんなあ。差をつけとかなきゃな。

徳永 名称は工員はなくなったんじゃけど。名称はなくなったんじゃけど、中身は同じ。

大戸迫 だから差別感ちゅうのはみんな持つとるわけたいな。全然。あのほら結局、労務管理の一環として会社やってやってきとるんだから、そう簡単に止めないよね。

福原 その係長に、主任係長クラスの人たちっていうのは下から叩き上げて上がってきたような人たちかなんかですか、それとも学卒でポーンと。

大戸迫 叩き上げはゼロに近かったね、以前は。

山平 闘争前はほとんど同じような。

山下 じゃなかつすか。だから職長くらいまでやろ。

山平 んで闘争前は、だいたい（昭和）37年の闘争前はほとんどおらんやったっじゃなかつすかね、叩き上げは。

山下 採用試験ば通った人はなあ。

大戸迫 係長ならんもん、単なるその。

山平 係長ならんもん。闘争後は会社が餌にしとりますから。闘争後、そん（昭和）37年は。

大戸迫 安賃闘争後は。

山平 第二組合のあれにしとりますから、叩き上げでも係長、課長になった人もおりますけどもですね。

徳永 まあ最初は地元のそういう人は採用しなかったから、いなかったですもん。

福原 係長も、主任も。

徳永 社員ちゅう人。

福原 ああ、社員を。

徳永 地元はもう、こう。

大戸迫 地元はもう社員としては採用せんわけた。

徳永 はい。

福原 でも正月にはそこに行ってるんですよ。

徳永 そうそうそう。（一同笑い）

山平 そらあもう。

山下 だからこそ、だからこそ行きよったわけだ。

福原 そこのとこをね、どう整理したらいいのかな。

徳永 そこはもう水俣人の得意かもしれんけど。

福原 いや、そういうふうには思っていないけどもね。

徳永 いや、そういう格好ですよやっぱ。喧嘩もありますよ、やっぱ。

山平 日頃も喧嘩しとるわけじゃなかったでしょ、やっぱり同じ職場の職制ですから。日頃はですね、どうちゅうわけじゃないと思うですたい。何かあったときはちょっとう、上手いこといかんかもしれんけど。日頃はそうないと私は思いますけど。そりゃ嘘でしょ、私たちでもやっぱこうあったですもん。それにしても、直接の上司ちゅうのはある程度、今は違いますよ、会社の体質がそげんだったわけでしたから。わいそん、抗議はしよったですけども、なんこの人はこっがしきらんとやねと思いがらやっぱ、ちゃんとなあ、特昇んときはちゃんと抗議しよった。そは、おっがしたんじゃて、結局、最後は勤労がずっとですからち言われりゃもう、そこまでですからな。そぎゃん言いよったですから、係長は必ず。逃げ口上にそげんして言えて、言われとったっじゃろうて。そぎゃんしよったですよ、闘争、(昭和)37年後は。かなり低かったから。もう職場で、必ずさっき言ったごて抗議行動ば起こしよったですよ。賃上げがあったり、さっきんごて、一時金があったときの特賞の査定を計算してちゃんと持ってって、なぜこがん低いかということで、そりゃもうずっとしよったっですよ。もう、かなり長うしたなあ、あんときはなあ。かなり長くしよったっです。

水俣地元の熟練工と組合における影響力

福原 あと、それでその、職場にもいろんな職場がありますよね。で、みなさんたちの経歴を見てると結構、技術系であったり設計であったりとか、まあ何て言うのかな、技術力がある、あるいは工具であっても熟練工的なね、そういう立場の人多いと思うんですが、その製造のラインっていうところは、その部分っていうのはかなり、何というか、熟練っていうよりも多能工的な仕事、大変な仕事は多かったんですかね。そちらの部分の話ってのは。

徳永 あのね、その例もな、いっぱいあるんですよ。もういろんな、各職場職場、何十個もありましたから。30くらいあったんですかね。その全部レーンがだからそこにあるんですよ。ひとつがだから30くらい。工務は工務関係でこうあるし、で、工務の中にも仕上げとか旋盤とか鋳物とか、いろんなラインがあるんですね。そのベテラン。

福原 いやもちろんそうなんだけど、それはその工場設備をつくる部門ですよ、製品を作るという意味では間接部門ですよ。

徳永 もちろん間接。

福原 だから間接じゃなく、直接製造してる部門の、何て言うのかな、職場の人たちは組合とどういうふうに関わってたのかなと。あまりまあ今日、来てる皆さんいらっしゃらない

んで。

徳永 いや、それは全部絡んどるからそういう安賃闘争が起きたんですよ。みんなだからそのレーンの中の、40から50くらいあるレーンの中の職長クラスはみんな第一組合員だったんですよ。

福原 いやもちろん、そうなんですけどね。

徳永 だからそれがあってこそ、安賃闘争が出来たんですよ。そういう流れになってますわな。これがなかったら、この核がなかったらもうバタンバタンていかれてしまったと思うんです。だからそういう中堅の人たちが、年寄りの人たちが、ちゃんと残って頑張ってくれたから安賃闘争もこれまで出来たと思います。だから、どこの職場も、だから職場のほとんど中枢の人たち、中枢っちゅうか、中堅の人たちが組合に残ってくれたから安賃闘争が出来たんですよ。

大戸迫 社員じゃない工員がたいね。ベテランの。

山下 それとやっぱり地元とよそ者のしとるごたっですからね。

山平 やっぱほ昔、社員っちゅうか、社員と工員といえば、ストライキのときですね、(昭和)37年にはですね、その職長ちゅう人が一番上やったんですよ。普通の叩き上げでは。職長ちゅうとが。その人たちが今、徳永さんの言うごと、大半が第二組合に行かんかったんですよ。

山下 地元やから。

山平 地元です。全部、地元で、身分制の中では工員の中の一番トップに立ってありますからですね。その人たちが大半が行かんかったんですよ。うちの組合員っちゅうとは、残ってこうずっとやっぱ最後まで定年までやっぱ、してくれたんですよ。そんだもんだから、結構うちの組合が持ち堪えたんですよ、そがんとやったな。そらしょっちゅうあれかもしれんばってん、やっぱりいずれ会社からの、ほんなこて何ちゅうか、差別てかそげんとがあつたもんだから、ずっと残とったっじゃなかなみたいな。

徳永 ちゃんと自分も身に染みて感じとるわけですね、下の人がかわいそうじゃちゅうのはちゃんと持とるわけですよ、ずっと。だもんやから、出来たと思いますね。

山平 技術員な結構おったですもんね、やっぱ。技術員、要するにさっきんごて、社員に近か人が登用試験ちゅうかですね、会社がいわば職能試験のごたつとばして、通った人が、もちろん職長もありますけど、そういう人たちは技術部なんかの、技術員はほとんど落ちたらしかな。技術部はたいがい落ちとるごたんな、職長はもう、割と残とるなあ。

大戸迫 ほとんどちゅう感じな。

山平 ほとんど職長は、9割は残とらしかつたなあ、職長、職長クラスは。

大戸迫 叩き上げの、現場の神様たいなあ。

山平 そうです。

福原 まあ多分そういう人たちがね、他のその化学メーカーに比べてチツソは多いんちゃう

かなと思っててね。

山平 多いでしょうね。

福原 まあその秘密主義っていう話もありましたが。

山平 そら今も多いでしょう。多くなれば、そげん職場行っとな。

福原 その間接部門は外に出して、あるいは工場建てるんだって、建設会社に頼めばええ話を、まあ出来る限り内部でやろうとするわけでしょ。そういう意味でそういう職人さんなりを抱えるっていうのは、これはかなり手作業的なね、部分って含んでるからそういう意味で熟練、それから技能を持った人たちが結構、層として厚かった工場なんやろなって、そういう意味なんです。

山下 だからそういうのはやっぱチッソの技術っちゅうか、技術力はものすごく高かったみたいすね。

福原 ですよ、だからそれを持っている職人さんたちのプライドみたいなものがね。

山下 だからそのプライドがあるもんだけが、不満が残ると。

工務部の合理化と配転

山平 たぶん今ごてですね、3分の1以上、半分近くはやっぱり間接部門じゃなかったですかね、現場と比べてな。考えてみれば。例えば3,000おれば1,500人くらいはもう間接部門の従業員じゃなかったですかね。

福原 で、たぶん直接部門を、たぶん戦後どんどんこうね、技術革新でオートメ化されていく過程は続くから、人員的な、そこかなり減っていくんじゃないですかね。

山平 そうですね。

山下 そこはかなり遅かったんですね。

徳永 チッソはかなり遅かったですね。

小形 45年まではあった。

徳永 手作業だったですね。

小形 45年でだいたい工務関係が。それまではやっぱり。

山平 工務関係はさっき言ったようにもう、実際の作る人と現場の知る人が別々やったけんですね。実際はそげんやったけんですね。はっきりしよったけんですね。

松田 だから、チッソの場合にはおっしゃったようにもう、間接部門、工務部だとか電気部だとかっちゅう、そういうのが非常に大きなウェイトを占めとったちゅうんですかね。ウェイトちゅうか、いかどうか知らんけど、従業員の数の中でですね。製造部門は割り方その、装置産業ちゅうんですか、またチッソの場合には遅れていたちゅうんですか、やっぱり石油化学分野の進出ちゅうんですか、そういうのが非常に遅かったちゅうのがあるもんだから、製造部もなんか、農業とか漁業じゃないけど、一次産業から二次産業みたいになっちゃうんですかね。その程度でですね、ほとんどまだ手作業で仕事し

とったっちゅうのがですね、それに近い、カーバイド工場とかですね、結局、全くまだ。

徳永 一次産業ですね。

松田 うん、そんな感じやったんですよ。

徳永 まだ手作業で、すべてやりよったからですね。

山下 電気産業だな。

松田 だから、そのときにはまだこの職場のベテランみたいっちゅう、また工務に近い職場のベテランみたいな人たちがおったわけですから。これがだんだん、だんだん、そういう職場がなくなってくるにしたがってですね、会社から見ればちとおかしいけど、今まではベテランだったかしらんけど、もうこういう、結局ですね、装置産業のですね、現場が技術革新になってくると、そりゃあベテランちゅう扱いは出来ませんよというよな、何か会社のほうは特に感覚になってくるんですよ。

福原 そうでしょ、特にそれっていつぐらいの時代にそういう動きが。

山下 (昭和) 37年の安賃闘争から40年代の。

福原 (昭和) 40年代ね、はいはい。

松田 そういうときに、だからここの機械屋さんなんかいうのが、特にその合理化、仕事を手がけて来るっちゅうのはあるし、我々もちろん、そういう形で設計をさせられるわけだけど、だからその頃からもうやっぱし、この職場を、いっちょこう言うならば、交代制の場合ですね、今まで5人のやつを3人にしますよとかですね、だんだんだんだん、職場がやはり言うならば合理化されてきて、その頃からやっぱし、何ですかね、必ずしも今までのベテランはベテランじゃないちゅうような形のですね、会社の扱いとか、組合としてもやっぱしもう何か、そういうところを人を減らされていくのに非常に、何つつたらいかな、その合理化との闘いちゅうのが難しかったと思いますね。だからもうその頃になってくると、そういう合理化される職場ごとに、必ず組合によって、結局、この合理化を許していいのか、許していかんのかとか、形がですね、論議はもうほとんど続いとったわけですね。

徳永 うんね、私がね、五井に(昭和) 44年に行ったんじゃけど、まだあそこも一部、ちょっとしたところは自動化、全部手作業ですよ。だから水俣は俺たちも出るときも、私も物ば言うたけどな、だいたいみな手作業で勘作業でしょうな。このぐらい流したらよからうっちゅうバルブの操作をこうひねって。だから、そういう勘の利く人たちが、だから職場にいっぱいいたわけ。こっちの組合の中にそりゃな。こう勘じゃな、勘じゃから、このくらいとか、これでいいと、バルブ操作で。もう勘でモノ、その製品を作っとるとですよ、勘で。だからそういう時代やから、だからそれに変わる人が、だからいないわけですよ、(昭和) 37年の当時は。

山下 安賃闘争終わってからも、やっぱあれ三交代部門回ってきってから。

徳永 こうやから。

山下 んでもう、昼間仕事して、百姓してだれとっけん、ベテランな、ちょっと馬糞ばいっ

ばいあけとって、生産のラインが全然あすこは違うごつしとったちゅうか、で、それをたまたま職制がしてくれて、あすこ行けば、ばらばらになるちゅうか。

小形 そうですね、(昭和)45年頃から、先生に言われるようなその自動化がもうだいたい会社としては、方針としてはやりたかったもう。だから、例えば肥料工場の体質改善工事ってのは10年かかったんです。なぜ10年かかったかちゅうと、一直十名、1か所、その係で10名が三交代やとるわけですね。それを3人くらいにしたいと、会社はそれを最初に言うたんですよ。それで、こんなこと出来るもんかちゅうな、それで組合そのものも、俺たちがやらんと、組合そのものもそげんと出来るかというふうな、最初は構えだったんですね。だけど、だんだんだんだん、やってくるうちに2人減らされ3人減らされ。もと10人いたのが5人に出来るわと。それがもう今なくなったですけど、あとはやっぱりせいぜい3人ぐらい。

山平 3人です、なくなる前は3人です。

小形 な、3人。そすと、九州化学の場合は1人。1人になったんですよ。それでやっぱり、それくらい、組合もやっぱ、追い込まれたちゅうと追い込まれた形になるわけですね、あの自動化されて人間が減らされてるわけですから、だけどその分を他の職場にこう、移していったんですからですね。それでそれをやるために非常に巧妙に。それで土建関係の担当は松田さん、第一組合で反対しとるやつをちゃんと頭に持ってきた。電気はヤマモト。

山平 タカアキさんです、タカアキさん。

小形 ほんで後、機械関係には1人、クラタちゅうのがこれ置いてあったけど、実際面では私に仕事が回ってきたという形です。第一組合が反対できないような体制をずっと作っていったんですよ。そして仕事はやっていった。で、だんだんだんだん、こう人間が減らされていく、そういうあれはあったんですね。

山平 それは小形さんが言うごと、そういう職場はうちの組合員が多かったですよ。結局は。そういう職場が。割と自動化が遅れとる職場が、結構うちの組合員が多かったです、特にほ、年もいっととでしょ、そんな問題の関係でですね。割と多かったんです、うちの組合員が。ほんでさっきんごて、小形さんの言うごと、ある程度ジレンマはやっぱあったんですかね。

山平 目の上のたんこぶであったつな、組合員が。

山下 他んところならなら、はいよかですよなとが。

福原 でも、その人たちは解雇っていうふうにはならないんですよ。

山平 もう組合の方針としては最低そこだったんですたい。やり方としては。解雇はもう絶対あってはいかん。

福原 それだけは回避するっていう。

山平 はい。

山下 でも後からもう全部解雇ですよ。縮小撤退で解雇一步手前の合理化。

山平 それで一步手前だったたい、もうおっどやんな。で、完全な会社の解雇要求。

山下 解雇はしきらんもんなあ。

山平 しきらんやったけんですね。そげん言っても、別会社行っても賃金下がったりなんたりしたわけです。

福原 ああ、もちろんそれはあるけれどもね。

山平 あったつです、そういうのはね。ほんで徳永さんなんかはさっきごて五井に行っとるわけでしょ。もう行ける人は転勤してくれろっちゅうごた格好で、その組合の方針も転換したわけですよ、44年に。徳永さんなんかが行くときには、組合の方針も。もうそんな時は組合もある程度、余剰人員な、計算してみても分かりますからですたい。で、もう仕方がないと。行ける人は行ってもらおうかと、いう格好になって、もう徳永さんなんか行っとらすわけでした、五井にね。

会社の事業展開と水俣病

福原 その70年代オイルショックとかがあったときね、まあ今の話聞いて60年代後半にその余剰人員、まあ合理化が進んで、余剰人員が相当もう出てるって話ですよ。そうするとオイルショックの後っていうのは、まあ他の産業部門においてはね、それこそ人減らしの絶好のチャンスだったわけですよ。だからそれを考えるとその70年代に入ってから、その余剰人員が既に出てるということを踏まえて、じゃあこの際、よその役目をばっさり切っちゃおうかっていう話には、会社はならなかった。

山平 うちならなかったな。オイルショックはそげんじゃなかったけど、山下さんの場合は自宅待機が最後でしょ、だいたい。

山下 そうなあ、(昭和)44年から45年が最後。

山平 はあ、そんな頃、うちは最後ですよ。

山下 ひとつとして、水俣病が片一方、抱えとっけんですね。

大戸迫 そうだ、水俣病。

山下 それがないと、ほんほん、まだやってた面もあったかもしれません。

小形 足かせになったんじゃないですか。

山平 まあそしてある程度、協定もちった、今のごてな、作とったけんなあ、だいたい。

大戸迫 あの、昭和46年ですね、私もとばされた方だけでも、ほら、余剰人員を吸収するためという理由で会社は新規、別会社作ったんですよ。合板事業、それからカーペット事業、もういっちょはなんだったかい。

山平 チェーン。

大戸迫 ああ、チェーンかい。

山平 そすとセントラル。

小形 セントラル。

山平 セントラル。この4つ。

大戸迫 それで私とそのカーペット事業のもろにふたつとも回されて、まあしかし賃金は下がるわけではないというんですたいね。まあその結局ほら、今までチッソがやっとらんかった仕事、別な仕事を、私もカーペットの場合ですから、小泉製麻と組んで。で、小泉製麻の技術で、人は人、我々いたちゅうことで、結局、その余剰人員を吸収する場に使ったんですよ。

山平 で、組合としてはほ、その前にチッソ開発っちゅうことで、賃金下がったいきさつがあるわけですよ。かなりですね。それもかなり苦労したけん、もうその後は絶対そういうことはせんちゅてな。な、建前でずっとやってきたですよ、だいたい。

大戸迫 ですから、それは成功したのかしらんのか、やっぱその（昭和）46年に作った会社は今でも残っとるかな。

山平 全部残っとっです。

大戸迫 残っとっとかい。

山平 全部残っとっです。

福原 それらの問題、まあ非常に興味深くて、セキスイとかね、旭化成の話とかもそうやけども。

磯谷 資金ありますね。

福原 何かそのチッソっていう会社は新しい事業を展開するね、いろんなネタを、だいたい化学関係の会社ってそうなんですけどね。「顔」なんて、そういう言われたんだけども。いろんなネタをもともと持ってたんですよ。

大戸迫 それとですね、人の、人ちゅうか、技術の人数持っとるもんだから。

山平 まるっきり違いますからですね。

福原 まあまるっきり違うところ。

山平 例えば合板事業ですよ、合板事業といわゆるカーペットでしょ。それとセントラルはうちの修理屋さんが行けばいいわけでしょ。それとチェーンもある程度、修理屋さんが行けばいいんですけども、こん2つは全然もう、経験ちゅうのが全然なかわけですからね。

福原 全然、関係ない。

山下 だからその、水俣病問題がなからんば、あれだけ新規事業も私は起こさなかったと。

徳永 起こさなかったかもしれんなあ。

大戸迫 起こさなかったでしょうねえ。

山下 水俣病問題とからめて。

大戸迫 それはあっど。

山平 ちょうど岡本さんが委員長時代、岡本さんがどうしてんば、チッソは水俣ば撤退するつもりでっちゅうことで、絶対撤退させんちゅて、最後それで取ったわけですからですね。そらもう、山下さんが言うごとく水俣病がもうそげんじゃったっじゃろうもん。

山下 他ならやっぱり、かなりやられとるとですよ。

山平 ばってん、あんとき撤退したら今のチッソはありませんですからですね。

山下 そうですよ。

山平 はっきり言うて。後からは、五井とか、あっちはほ、どんどんだめになりましたから。

水俣はよくなりましたから。やっぱほ、岡本たっちゃん（達明）政権。

大戸迫 確かに岡本委員長のとくにひとつね。

山平 そうです。

大戸迫 こらもう全てをあの委員長は、何でもその手にあるやつはもう喧嘩道具に使ったから。そういう点はやっぱり凄かったな。

山下 そっぱ松田さんたちが支えとったんですな。（一同笑い）

大戸迫 てっちゃん（松田哲成）が。

組合の方針転換と農民会の支援

松田 しかし本当、何か、先は何かやっぱり見えなかったちゅう感じよな。本当は。だからその付近はやっぱたっちゃん（岡本達明）は何か腹くくって、腹くくってやっぱ、やったと。

山平 そりゃそうでしょう。

山下 いや組合も腹くくったち思うですよ、あん時に。

福原 それは（昭和）45年の話ですよ。

山下 そうです。

大戸迫 （昭和）45年頃ですね、あん時は。

山平 私は調査部でですね、退職金の計算までしましたよ、組合の。せろっち、岡本達明の指示やったもん。

山下 全部ほ、面接してたい、家族構成から財産から何から、希望聞いて。

山平 そうです。希望聞いて、言うたですよ、さっきんごてな。

山下 組合から、転勤せんかち言われたときはショックやったもん。家族から言わるとよりショックやった。

山平 組合はそう決めたわけですから。

福原 年表見たら「7月23日、水俣工場存続の為従業員1,580名を930名にすると発表」で、これ書いてるけど、これで委員長が今、言われてる岡本さんになって、組合は急にこの方針を、会社の方針を支持しつつ。

山平 支持ちゅうか、もう仕方がなかったんですたい、背に腹はかえられないと、でさっきんごて、首切りさえなればという格好やったんですね。

山下 で、そんなために新規事業を起こせちゅうか。

山平 起こせちゅうな、それでその新議事起こしてさっき言ったように、チッソ開発で、

行った後、賃金がずっと下がった経験がありますから、そんなことは絶対させんという格好でして、やっぱチッソと同等の賃金をずっとして、最後はチッソに引き取ったんです。

福原 1万9千人の署名活動。「新議事起こして首切りするな」。

山平 そら、署名もありますよ、下に。コピーですけども。原本ではもう出しとるからですね。コピーはありますよ、こんなに。昔は青焼きですから、青焼きをいっぱい、山下さんあたりがコピーしたはずだけん。自宅待機組かなにはな。

山下 自宅待機んときにはほんな、山中でんなんでんけん。

小形 んで、側面的にそのとき応援してくれたのが、農民会です。

福原 え。

小形 農民会ちゅうのが。

福原 農民会。

山平 はい、そこらへんもちょっと変わっとるわけですよ、ここ水俣は。一風変わっとるちゅうかですね。

小形 あの、あそこの興銀にむしろ旗立てたのは、まあ岡本の発案でしたけど、太田さんは反対したけど、農民会が付いて行ったんですよ。

磯谷 農民会っていうのは何。

山平 うちはですね、発電所持っとなつてしょ。そんで発電所から送電線を通じて持って来ればほとんどが、要するにある程度、田んぼとか畑とか山とかに鉄塔ば建てんばいかなじゃなかですか。そっぱ全部、そういう人たちが所有しとるわけですよ。それとか、排水溝は水俣川から入れとつてしょ。

山下 用水たい。

山平 用水ですたい、排水溝ちゅうか、工場用水を。そういう人たちの地主ですよ、いわば。そこを使っただですよ。

山下 組合にいっぱいおったわけですよ。

山平 組合員にもおったし。

小形 そのおかげで私は転勤に。

山平 半農半工だけんですね、水俣は。

小形 ちゅうのは、場所を提供しとったんですから。そんならそこをならしてくださいと。

山平 そうです、もう契約は継続せんとか何とか。

小形 そうすつと、鉄塔をひとつ直したら、あと全部やらにゃいかんでしょ。だから、結局私の首は飛ばなかった。

山下 組合員を首切るんだったら、うちんところを通つとる配管な追い出すと、直せとच्चち言うわけです。

山平 そんな、運動を。

小形 曾木の発電所からの送電線が通ってたんです。柱だったんです。その鉄塔が3か所う

ちのあれがあったわけ。それで、ああ結構、転勤せ、お前ら一番に行けと、やられたんですよ。ああ、そんなら結構です、そんならあその鉄塔を直してくれと。直すなら行きますと。直すなんて出来んとです、1か所直したら全部直さにかんわけですよ。

山平 そんなで結構うちは農民会の力って強かったんですね。そういうけんですね。

花田 農民会っていうのは何、戦前からの農民会の流れの会なんですか。

山平 違うんです。

徳永 闘争の。

山平 (昭和) 37年の時出来たっです。

山下 第一組合を支援するために出来たんですよ。

山平 さっき言ったようにうちの組合員の親父だとか。

福原 昭和37年。でも、名称はえらく古臭い名称。

山下 わざと古くさい。

山平 農民会ってもうほ、水俣ってなあ、今回見つけたハゼ山のハゼノキの交渉も農民会でしょ。

花田 ハゼノキ騒動でしょう。

山平 はい。やっぱ。あれも出てきますよ。

山下 それとやっぱり。

山平 組合に陣中見舞い来たりなんかしょっとですよ。

福原 そういう人、農家の次男坊三男坊が、工場に行く。

一同 そうそう。

小形 私みたいなやつが、家にはそういうあれがあるわけですね。持ってるでしょ。それが私は首飛ばんだったんですよ。お前は三男坊やけん、転勤してよかろって言うわけですよ、会社がですね。おお、結構ですよと。

山平 たぶん歴史に、どっかになんか書いてあるでしょ、何年頃、旗揚げしたとか。闘争中に旗揚げしたんですよ。

山下 年表に。

山平 この中に、どっかに入っております。

磯谷 昭和37年の12月に。

山平 はい、そらほっでほ、抜けとったもんだけん、こらもう絶対、載せとかないかんちゅうこっで、見つけて入れたっですた、はい。

徳永 写真集も入ってますよ。

山平 こらは、全部写真集のほんなこて、別コピーしとるけん。

磯谷 1か月足らずで2,500名。

山平 そうです。そんなころはほっで、また多かったですよ。

福原 あんまそういうのは、他では聞かへんなあ。

山平 そうですよ、水俣はさっき言ったようにですね。

山下 都会と違うと思いますよ。

山平 この前も言ったかも知れんけど、水俣は町が二分したわけですよ、あの（昭和）37年。

花田 なんか、とってもクローズなコミュニティですね。

山下 だいたい、低賃金でよかつちゅうような。

大戸迫 水俣の特殊性とでもいうんでしょうかね。完全に地元の子弟がチッソの従業員なつとる。で、親父たちは地主として、まあ地主というよりも、そんな時までは会社様様だったと思うですけどね。自分たちの次男坊三男坊息子がいじめられるもんだから、もちろん組合からも一応アタックしましたよ。しましたが、そしたら水俣のボスのおじさんたちが立ち上がってくれたっですたい。

小形 これなんか、その六角。

福原 ああ、むしろ旗。

小形 デモ行進を私が撮ったやつですけども、そういうデモは。

山平 闘争中はさっき言ったように、もう店もうちの組合の協力と会社の協力とちゅうように分かれたたもんね、水俣の町は。

山下 チラシに出して。

山平 チラシに出して。

山下 ここは利用するなど。

山平 そげんですたい。

花田 会社側の方が強かったんですかね。人数からいうと労働者、組合の方が多かろうけど。

山下 いや、やっぱ会社の方が強かったですよ。

山平 そら会社の方が強かったですよ。例えば飲み屋なんかがやっぱそん、…。会社利用せんばうちんよかな。

松田 そらもそうですよ。

山下 金持っとる方が強かですよ。

花田 そうか、組合員は。

徳永 金で支配しとる。旅館街とか全部、金で支配しとるからな。

山平 繁促（繁栄促進同盟）とか三笠屋とかそのトップですから。先生たちが使うところのな。

花田 だからもう三笠屋使わんようにして。

山平 そりゃもう絶対そうと思いますよ。